

# 「現代美術分野への緊急助成制度に関するアンケート」

## —コロナウィルス感染症対策に伴う緊急助成および美術助成に関する調査—

### 結果報告書

#### 【調査概要】

- 調査目的 : 新型コロナウィルス感染症の拡大によって大きく変化した芸術・文化状況を鑑み、現代美術分野における緊急助成事業を検討するための現状分析とニーズ把握を目的とした。
- 調査方法 : インターネットを活用したオンラインアンケート調査
- 調査期間 : 2020年5月10日～5月20日
- 調査内容 : ①新型コロナウィルスによる活動への影響と必要な支援策  
②美術分野における現状の助成制度について
- 調査対象 : 美術分野での活動、事業に従事されている方
- 有効回答数 : 354件(有効回答率100%)
- 用語の定義 : 本報告書では、「現代美術」を「美術(広く視覚芸術)の分野において同時代の社会をまなざし、創造される実験的な表現や活動」と捉える。絵画、版画、彫刻、映像、工芸…といった、美術における表現の形態や方法は、特に限定しない。
- 留意事項 : 必ずしも視覚芸術ではない分野(ダンス、伝統芸能等)を主たる活動分野とする回答者もあったが、領域横断的な現代美術表現を鑑み、有効回答とした。

2020年6月30日

公益財団法人小笠原敏晶記念財団

## 1. 新型コロナウイルスによる「活動への影響」と「必要な支援策」について

### 1) 新型コロナウイルスによる活動や生活への影響

「新型コロナウイルスによる活動や生活への影響」について複数回答可で尋ねたところ、全回答者の約7割(68.1%)が「今後の計画が立てられない」と回答した。続いて、「活動の自粛(自己決定)」が60.7%、「催し本番が延期された(関係先が決定)」「催し本番が中止された(関係先が決定)」が、それぞれ55.6%、52.8%で、回答者の半数以上が自粛や延期・中止を経験していた。また、「移動制限によって活動が困難になった」(50.8%)、「予定していた収入の大幅減少」(50.3%)についても、全回答者の半数が該当することがわかった。

自粛・中止・延期によって収入が大幅に減少し、移動制限や自粛要請のために活動が継続できず、今後の計画も立てられないという、影響の連鎖が浮かび上がった。

「特に影響はない」との回答は1.4%(5名)であった。

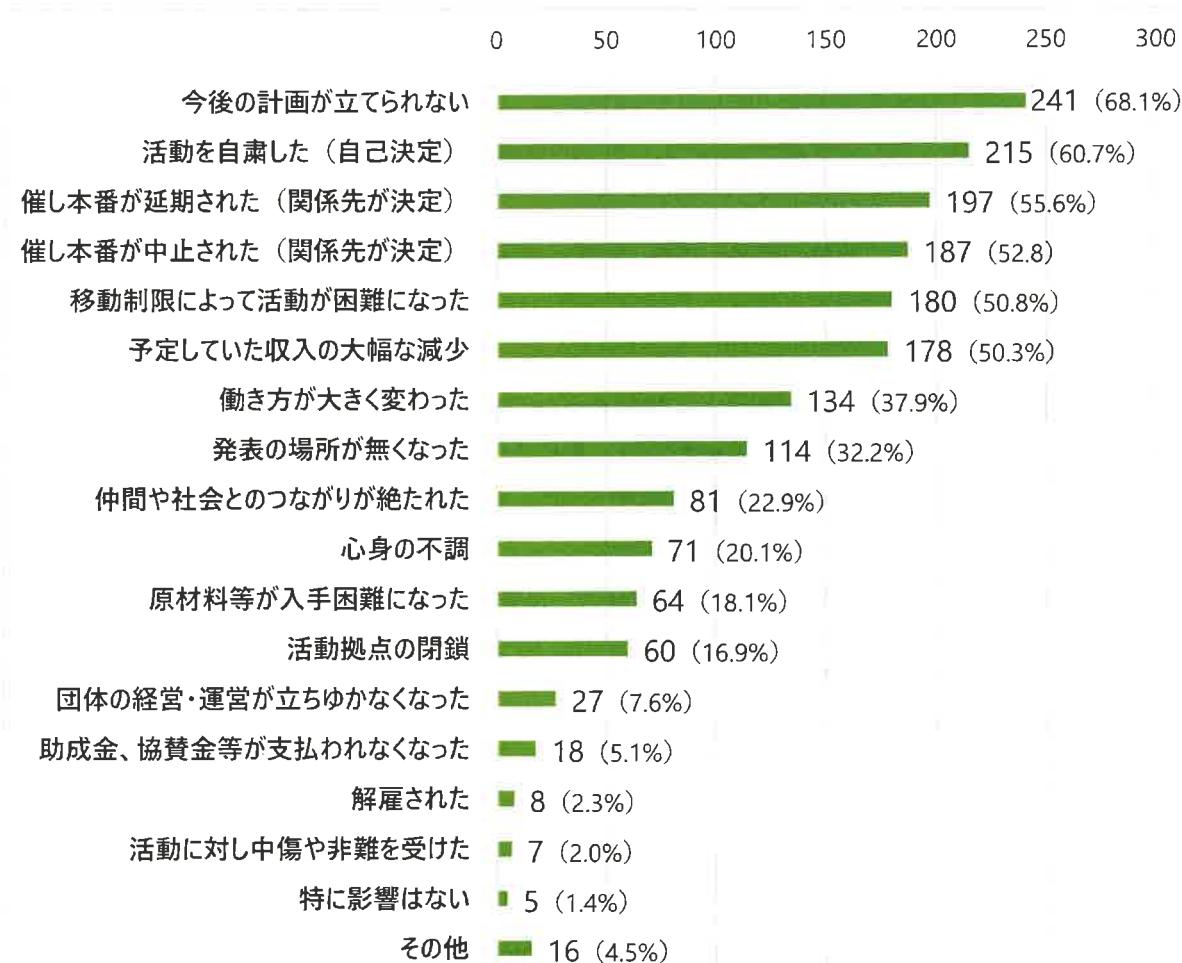


図1【新型コロナウイルスによる活動や生活への影響(MA、N=354、必須)】

「その他」(4.5%)の具体的な回答内容は、以下の通りである。

- ・人を集めての作品制作(撮影等)ができない
- ・オンライン活動が増えた(インフラ必須と経費負担)
- ・自宅がスタジオで、小学生の子どもたちが終日自宅にいるため制作に必要な時間が取れない
- ・催し内容を現在の生活方法に合わせて変更した
- ・コロナ関連の対応事務が増えた
- ・開催延期に伴い、契約日数より少ない勤務日数となった
- ・急な中止でキャンセル料金等がかかった
- ・企画展がウェブ上での展示のみになった
- ・周囲の個人や組織の立場、関わり方が変わった
- ・海外への作品販売で、小包の航空便が止まり、高くて遅い船便にせざるを得ず支出が増えた
- ・文化芸術関係者を対象とした実態把握調査等の業務依頼が増えた
- ・不要不急な扱いを受け無力さを痛感した
- ・活動方法を変えた。近隣に監視されている感じがある。
- ・スタッフを解雇せざるを得なくなった。

※ 選択肢にない内容を抽出。回答者が特定されないよう固有名称等は省いてまとめた

なお、本設問は選択肢方式だが、後述する自由記述式で尋ねた「6)現状や今後についての意見等」(表 3)には、より個別具体的で詳細な、新型コロナウイルスによる活動や生活への影響について述べられている。

## 2) 活動への影響を軽減するために必要な助成・支援

「活動への影響を軽減するために必要な助成・支援」について尋ねたところ、「現状の活動を維持するための助成」が 61.6%と最多であった。続いて「使途を問わない助成」(54.8%)、「生活費にあてることのできる助成」(50.3%)についても、全回答者の半数以上が選択した。

多くの回答者が現状の活動維持を望む一方、「新たな活動の立上げに対する助成」の必要性についても 44.9%の回答があり、制限がある中で新たにできることを模索する様子が見て取れる。

「中止・延期した事業の費用を補填する助成」については、34.7%の回答があった。また、資金的な助成以外にも、全体の約 2 割が「専門技術や専門知識の支援」(20.3%)や「相談窓口の設置」(20.1%)といった、いわゆる非資金支援の項目を選択した。コロナ以降、公的補助や給付金に関する相談等の要請は社会全体でみられたが、美術分野においても、情報や知識の提供、相談できる場が求められていた(いる)ことがわかる。

回答の上位に、「生活費にあてることのできる助成」(50.3%)、「固定費の助成」(44.1%)などが挙がる一方、「人件費に対する助成」は 28.2%と全体の 7 番目であった。これは個人での活動が比較的多い美術分野の特徴、および、アンケート回答者の約 6 割(218 名、61.6%)が個人事業主／

フリーランスであることも反映していると考えられる。他の設問でも、おおむね同様の傾向である。

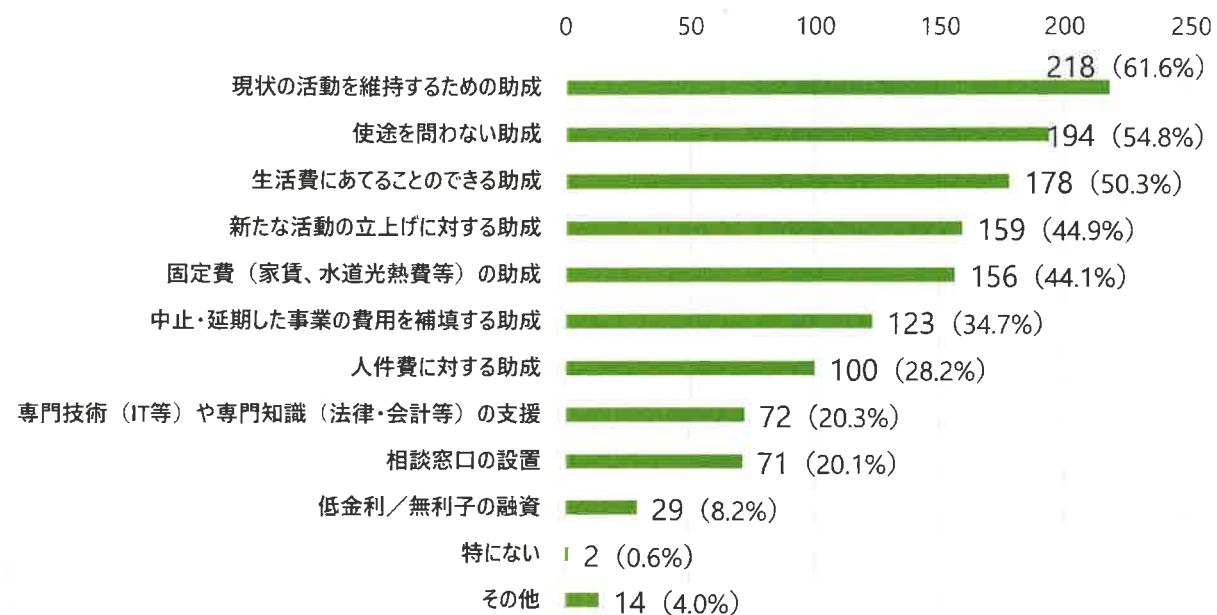


図2【活動への影響を軽減するために必要な助成・支援(MA、N=354、必須)】

「その他」(4.0%)の具体的な回答内容は、以下の通りである。

- ・コロナ影響下で文化事業を実施するための意義やメソッドの共有
- ・在宅勤務システムの紹介、支援。同業者のみで一般非公開の情報交換プラットフォーム。
- ・アーティストの作品・活動をシェアできるネット上のプラットフォーム(オルタナティブな発表の場)の提供
- ・健康や衛生上の対応に関する相談窓口
- ・オンライン経費およびインターネット機器の支援
- ・発表の機会
- ・1年以上の活動期間への支援・助成が可能であること。採択時に助成が下りること
- ・助成金の前払い／事前にまとまったお金を出してほしい
- ・コロナショックで税収入が激減する次年度以降の公的補助金が目減りすることも見据えた、長期的な活動支援
- ・美術界全体、もしくは個人ではない美術館への助成
- ・そもそもアートの社会的価値を底上げしてほしい
- ・公共施設を開ける(図書館、美術館)

※ 選択肢にない内容を抽出。回答者が特定されないよう固有名称等は省いてまとめた

### 3) 美術分野における非常時の緊急支援において特に必要な事柄

「美術分野における非常時の緊急支援において特に必要な事柄」を3つ選択してもらったところ、「個人やフリーランスへの支援」が49.7%と最も多かった。本調査回答者の約6割が「個人事業主／フリーランス」(61.7%)、「作家／アーティスト」(58.9%)<sup>1</sup>であることも背景にあると考えられるが、個人やフリーランスで活動する人々が多い美術分野のニーズが、あらためて浮き彫りになった。

続いて上位だったのは、「助成金の使途を問わない」(48.0%)、「申請の手続きが簡便である」(46.3%)であり、およそ半数近い回答者が選択した。「申請から決定、入金までの期間が短い」(37.3%)を含め、美術分野における非常時の緊急支援において求められることが見えてくる。

また、「できるだけ多くの人・団体に助成が行き渡る」と回答した人が22.3%だったのに対し、「一件当たりの助成額ができるだけ多い」は2.3%にとどまった。緊急助成では「人数か金額か」について意見が分かれるところだが、本調査の回答者においては、できるだけたくさんの人・団体に対する助成を、より望んでいることがわかった。

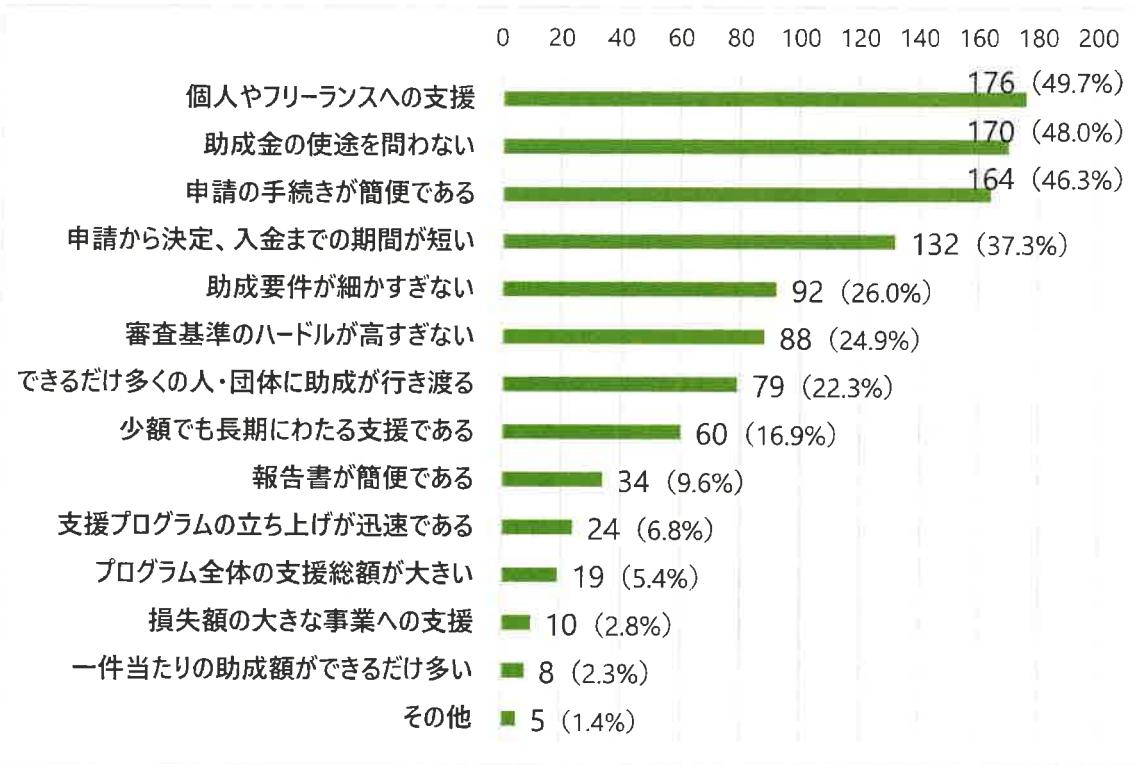


図3【美術分野における非常時の緊急支援に特に必要な事柄(3A、N=254、任意)】

「その他」(1.4%)の具体的な回答内容は、以下の通りである。

- 助成の基準が明確であること(不採用の場合理由が示され、異議申し立ての余地があること)

<sup>1</sup> 後述の回答者属性を参照

- ・オンライン申請が可能であること
- ・提出する文章の量が適切であること
- ・居住地が応募条件に入っていない助成が増えてほしい
- ・ベーシックインカムの導入
- ・県によって芸術支援意識の差がありすぎることへの対策
- ・コロナの状況下で国籍や活動形態、成果物にこだわらない新しい企画等の研究・実践に使える長期の文化エンタメ助成があるとよい
- ・助成対象が知名度と業界内での好感度が高いだけの有望アーティストばかり。弱小アーティストこそ助成を受けられないと、非常時には文字通り作家として死ぬ

※ 選択肢にない内容を抽出。複数の内容が含まれている記述は、分割して掲載した

#### 4) 必要な支援額

「回答者自身にとって必要な支援額」を任意で尋ねたところ、回答者の約7割、254名から回答を得た。最多回答は「100万円」(18.1%、46名)、続いて「50万円」(13.4%、34名)、「30万円」(13.0%、33名)、「20万円」(7.5%、19名)、「10万円」(7.1%、18名)、「200万円」(6.7%、17名)、「300万円」(5.9%、15名)であった。最多額は「1000万円」(2.4%、6名)、最少額は「3万円」(0.8%、2名)で、「1万円でもいくらでも大変うれしい」との回答もあった(0.4%、1名)。

「数字」としてみる限りは、回答にかなりばらつきがあるが、各回答にはそれぞれの理由があることが、次の設問「必要な支援額の理由」で把握できる(表2参照)。中央値や平均値だけでは見えてこない、回答者それぞれの必要額の理由を知ることが肝要であろう。

表1 【ご自身にとって必要な支援額(N=254、任意)】

必要額	回答数(%)	必要額	回答数(%)	必要額	回答数(%)
100万円	46(18.1)	50~100万円	4(1.6)	135万円	1(0.4)
50万円	34(13.4)	5万円	4(1.6)	130万円	1(0.4)
30万円	33(13.0)	600万円	3(1.2)	90万円	1(0.4)
20万円	19(7.5)	120万円	3(1.2)	200~300万円	1(0.4)
10万円	18(7.1)	25万円	3(1.2)	210~420円	1(0.4)
200万円	17(6.7)	12万円	3(1.2)	350万円~500万円	1(0.4)
300万円	15(5.9)	160万円	2(0.8)	70万円	1(0.4)
1000万円	6(2.4)	150万円	2(0.8)	14万円	1(0.4)
60万円	6(2.4)	80万円	2(0.8)	20~50万円	1(0.4)
500万円	5(2.0)	10~20万円	2(0.8)	8万円	1(0.4)
40万円	5(2.0)	3万円	2(0.8)	20~30万円	1(0.4)
15万円	5(2.0)	400万円	1(0.4)	15~20万円	1(0.4)
		180万円	1(0.4)	1万円でもいくらでも	1(0.4)

なお、「単位:万円」とだけ指定する自由記述にしたため、以下のような回答も寄せられた。こうした回答からは、必要額を単純に 1 つの数字で回答しにくい状況や事情に気づかされた。なお、集計にあたっては、「○万円×3カ月」のような回答は、その合計額で分類し集計した。

- 「○万円～○万円」
- 「毎月○万円」
- 「半年で○万円」
- 「最低○万円」
- 「○万円×3カ月」
- 「1回○万円を複数回」
- 「毎月○万円を2～5年」
- 「世界的に感染症が収束するまで毎月○～○万円」
- 「～○万円」「○万円以上」
- 「今年でいえば○万円程度」
- 「○万円を複数月にわたって」
- 「1件あたり年間○万円を3年間」
- 「○万円／月（収入が回復するまで）」
- 「○万円／月×活動が制限される月数」
- 「コロナが終息して仕事が戻るまで月○円」

## 5) 必要な支援額の理由

「回答者自身にとって必要な支援額の理由」を尋ねたところ、242名（全回答者の 68.4%、必要支援額回答者の 95.3%）から回答を得た。表 2 は、回答内容を必要額の多い順にまとめたものである。

積算の理由が明確に示されている記述からは、コロナウイルス感染症の拡大によって、活動にどのような影響があり、自粛・延期・中止によって具体的にどのような損害が出ているか、影響が続くと想定している期間などを、把握することができる。あるいは、本アンケート回答者の美術活動が、どのような資源によって、どのような規模感で行われているのかも、読み取ることができる。

被った／被る損害についての記述だけでなく、今後に向けた新たな取り組みを検討している様子や、影響が生活面（生活費）にも及んでいる旨の記述も多数あった。また、本設問はコロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急支援の必要額を問う想定の設定であったが、緊急時に限らず回答者が必要としている支援額についての記述もあった。

全242件の回答内容に頻出する語句（キーワード）を分析すると、回答した支援額の理由を大枠で 9 項目に類型化することができた（図 4）。①「減額分の補填」（イベントなどの延期・中止・キャンセルによる収入・売り上げ減、損失）関係の記述は全体の 37.6%（91名）、②「固定費」（アトリエ、ギャラリー、スペース、作業場所、会場、スタジオなどの家賃、設備費）関係は 33.1%（80名）、③「生活費」（水道光熱費、食費）関係は 25.2%（61名）、④「当面の制作活動資金」（材料費、通信費、印刷費、画材費、機材費）関係は 23.6%（57名）、⑤「人件費」（スタッフへの支払い、雇用継続）関係は 12.0%（29名）、⑥「中長期支援」（未来への投資、新規プロジェクト立ち上げ）関係は 6.6%（16名）、⑦「移動・滞在費」（滞在費、交通費、旅費、宿泊費）関係は 5.8%（14名）、⑧「IT 環境設備費」（システム、オンライン設備構築）関係は 3.3%（8名）、⑨「広告費」（広告、広報）関係は 0.8%（2名）であった。

各項目の順位は異なるが、図 2 の「活動への影響を軽減するために必要な助成・支援」の結果と重なる部分も多い。「必要な支援金額の理由」は、「活動への影響を軽減するために必要な助成・支援」の具体的な根拠になっているともいえる。

表 2 【ご自身にとって必要な支援額の理由 (N=242、任意)】

必要額	理 由
1000 万円	1000 万程度の資金があったら、現在経営している芸術組織のスタッフへの支払い含め今後 1 年間の活動を継続しつつ、コロナ以後の新たな活動の準備に着手することができるため
	感染による自粛の間を約 6 カ月と想定した。その間の固定費、人件費のランニングコストが必要
	新規事業の立ち上げ
	来年開催予定の展覧会運営、活動資金を調達するため
	3 月から 2 月の事業の損失額
600 万円	非常時で入金がなくとも 1 年分の固定費・人件費がこれだけかかるから
	延期となった 6 カ月の人件費
	アーティスト活動も、多岐にわたる文化や社会の重要な活動として、かつ、国の遺産として、福利厚生や退職金などを考慮し、他の公に関わるが自由な業務として捉え、日本の平均年収+ボーナス+退職金を確保し、提供してほしい
500 万円	今年関わる企画の報酬額がこの金額程だったが、芸術祭自体がコロナの影響で中止となり、それに向けて制作した時給と制作費などの経費が十分に払われず、生活が困難になっているため
	半年程度のスタジオ家賃、スタッフ人件費、借入返済などの固定費
	最低限の生活費と活動費として
	作品発表を継続するため(Independent artist)
400 万円	生活費、活動資金、制作費
	年間を通じた長期的でまた持続的な活動ができなければ、支援に頼らざる負えない状況を作り続けると考えているため。また生活のための資金を作る時間を 0 にすることが可能な上、自身の作品や活動にも投資できるリーズナブルな額であると思う
350～500 万円	運営人件費が不足するため
300 万円	自身の企画のプログラムの制作運営費用
	1 人分の 1 年間の人件費
	施設と組織維持の固定費および新規の事業費を確保したい
	活動のみならず生活も厳しいから
	1 年間の活動資金の最低金額
	ギャラリー賃料、海外大手アートサイト登録料
	文化芸術は表現者だけでなく鑑賞者がいて初めて成り立つ。表現者がいくらがんばっても鑑賞する側の精神の回復がなければ他者に目が向かない。それには数年かかると思う。その間、研究・模索しながら精神力を維持し、最低限の文化的生活をするには 300 万(数年)でも足りないくらい
	持続化給付金は赤字補填になるため。活動参加者に IT 環境整備の必要があるため
	スタッフの人事費と交通費の支給(一部)
	およそ半年分程の最低賃金相当
210～420 万円	イベントなどが以前のようにできない期間、生活費と材料費、あるいは新たに必要性とされる技術の習得や設備投資、生活を維持し 1 年後の未来に投資する必要な最低限の金額
	プロジェクトに 300 万円は最低必要だから
200～300 万円	半年～1 年分のスペースの維持費、今後の活動資金。先が見えないため、半年分の運営資金は最低でも必要
200 万円	関わる予定だったプロジェクト 2～3 本が新型コロナウイルス感染拡大を理由になくなってしまったため
	2 年間の生活費
	海外での作品の売り上げが入ってこなくなっている。とりあえずここ 3 カ月ほどの自分の今の活動を維持するため(スタジオ費+外注費+アシstantなどの人件費)
	状況の変化により作品の共有形態の変更を鑑みる上で技術的に機材を新たに揃える必要があるため
	現在行われている活動の調査費用、活動再開後にコロナ危機に対するケアとして新たに活動を始めるための資金
	最低限必要経費・生活費+制作費
	海外作家との共同プロジェクトのため、制作費のほかに渡航費や材料輸送費、現地滞在費がかかる
	共働きのため、月 10 万円( × 12 カ月)を生活費として使用し、残りをずっとやれなかつた活動環境整備資金として利用したい。機材購入など
	年内の仕事のほとんどが中止、延期になり、新規の仕事もあまり見込めないため、生活、設備維持、活動費、半年～1 年くらいの目安で算出
	海外での展覧会などの活動ができなくなり、オンラインでできるシステムの構築費

	<p>収入が激減、固定費の支払いが大変。生活費も      5月までに開催される予定であった展示会においての総売上額      地域住民と協働で、スタッフが賛同するプロジェクトをする場合、100万円以下の少額だと複数の助成を受けないと運営ができます、やりくりが煩雑になり妥協点も増えてしまう。できれば大きな額でプロジェクト全体をカバーできることが望ましい      海外美術館に販売が内定していた作品群の売り上げを見込んで材料調達と人件費ほか経費に投資したが、渡航制限と展覧会延期のため資金回収の目処が立たないため。現在材料費の支払い期限が迫っており厳しい状況      海外からの作家と国内作家との滞在制作活動支援の内、滞在費と旅費の一部      生活と活動継続のため</p>
180万円	半年間の活動を支える資金として
160万円	1つの展覧会に必要な経費
150万円	固定費・維持費 活動自粛期間と美術館閉館などによる長期の不安定な状況を6ヶ月間と仮定して月に25万円ほど補助が続けば、その後の活動への準備が十分できると想定されるため
135万円	生活費含む活動維持費
130万円	パンデミックの影響によって損失した金額だから 年間収入の3分の1(今程度の収入源になると予測)
120万円	先を急ぐのではなく、新たなプロジェクトへの方向付けをする思考期間を含め、創作活動の礎となる生活も含めた保証のお願い 例えば月々10~20万円程度の支援がある場合、生活費に当てるか、生活費が大丈夫な場合は、継続的な制作資金／活動費になる。20万円×年末まで半年と考えて120万円。
	経済活動ができない、例えば1年間の環境維持費用や家族の生活費用
	活動資金
	活動ができない間の家賃と人件費補助 コロナ禍に対するアートプロジェクトを立ち上げ、スタートした。社会に対しそれが必要だから。そのために助成が必要
	新しい取り組みを整備するのに機材購入等含め運営の人件費などを含めて 発表の機会が見込めない中、また収入源による経済的な苦難においても継続して制作活動をするための資金として最低限必要と考える
	作業場所を確保する年間経費
	通常時の最低事業収入の3ヶ月分程度
	家賃・水道光熱費等維持費、材料費等製作費 先の見えない中で、企画や制作を中期的な視野で練り上げ、観客に先行きの希望を提供することが、芸術が担う社会貢献だと強く実感している。目の前の生活を維持する短期的救済と、時間を要する制作の中・長期的な支援のどちらも必要。個人に対する中期的支援という意味でこのくらいの金額は最低限必要。
100万円	キャンセルや延期となった展覧会や催しで、すでに準備を進めていた制作物にかかった費用や、これから制作に入るプロジェクトの経費見積もり、収入となるはずだった作家謝礼から算出。制作費や経費は、基本的に展示後に払い戻しとなるため、それまでは作家の持ち出しとなるのが常。今回の緊急時においてそれらを見せる機会を失い、またいつ見せることができるのかがわからないが、延期された分の準備は当然続けるという事態に直面しているのと同時に、その間の生活費を賄わなければならないという非常に厳しい状況。このような緊急事態においては、成果物に対する対価を後から補填するだけではなく、準備段階からの制作とできれば生活の両方を長期的に支えていただける助成をお願いしたい
	半年間の生活費と製作費
	コロナの影響で予想される1年間の減収
	リサーチ、作品制作、場所場所の確保、簡単な広報まで含めた予算
	通信費、印刷物、次年度の会場予約費、ホームページ管理費等
	次回作品展示場所制作費
	会場の借り直し、宣伝のし直しながら3件分程度可能になる金額
	年間収入の最低ライン
	延期により発生する最低限の会場費用相当額として
	家賃
	他企業のアンケートで、1人100万円をだせば70%近くのアーティストが継続可能とされているため活動費、移動費、スタッフ費用など、プロジェクト全体を支える費用として。
	Webコンテンツ制作の資金として
	展覧会の運営
	半年程の制作費

	状況が悪化したというより、もともと作家への状況はかなり悪く、それがコロナによってさらに不安要素が増えたという感じをもっている。回答額は漠然としたところだが、展示のため1年ほどかけて用意しているものがとぶ可能性を考慮して、予定が消えたとき身を守るすべはないことが多い 中～長期的な生活費・制作費として必要な金額 コロナウイルスによって給料が少なくなっているので先行きの見えない数ヶ月先の生活費(家賃光熱費含む)を補助するため、制作費、材料費など 1年間は活動が通常の様にはできないと思うので、最低の1年間の継続可能な維持費として想定 木材を購入して、制作する1・2カ月の生活ができる金額 算出できる損失70万円に追加して、30万円の休業による算出できない補償 活動費と生活費 コロナの影響を鑑み、知人や交流のある作家・画廊の作品、書籍などを購入するために使った額 もらった最高金額がこの支援額 損失分の補填、リスタートのための元資 展示の延期で先の見通しが立たなくなり、金もなくなったので。 仕事が無くなり売上がり無いので生活費にあてるため 現時点での損失を受けた金額 日々秋までにさまざまな事業が終わる予定で人件費を計算していたが、秋以降に延期となったため、延期した期間の人件費が必要となった
90万円	中止になった仕事、開始が延期になった仕事などで無くなかった収入分
80万円	当面の生活費、家賃、なくなった仕事のある程度の保証 (80万円=1カ月)開催している会員制のワークショップを4月5月と自粛したので会費収入が無く、家賃&人件費その他について。33年続けてきたスペースの維持が困難に。楽しみに待っている人々、特に子どもたちのためにも、なんとか再開したい
70万円	家賃光熱費の約半年分 毎月小さなプロジェクトをやり続けるための費用 事業中止にかかる調整費用10万円、事態に対応した制作準備費30万円、その他感染症対策の影響の補填費20万円
60万円	3カ月分の生活費 今回の非常事態における制作に対する資金を少なめに見積もって1月10万円を半年分 固定費等の補助として月5万円×12カ月 制作スタジオ家賃6カ月
50万円	延期になり展示形式に制限が設けられたことで製作内容を変更せざるを得なくなり、すでに動いた外注先への支払いなどを補填するため コロナによってキャンセルになった収入額 年間の固定費分 活動自粛によって失った時間を取り戻すのに、作品制作補助員を雇用する費用等が必要なため 個人活動/生活の維持と新作の準備を行える 生活費、アトリエ維持費込み 今後の活動費、運営費 スタジオの維持 IT設備増強のため 活動自粛で損失が見込まれる収入 作品発表の機会の喪失は、今後の仕事につながる出会いの喪失である。自粛要請により、その可能性が閉ざされている現在、仮に支援金を受けられるならば、現在の不安と緊張に対する緩和だけでなく、未来への(社会性を伴う)思考を生み出す時間を創出させる。具体的にはスタジオ(家賃)および固定費の支払いに充てる およそ3カ月分の家賃、経費 生活費、機材維持費、制作費 コロナ対策を鑑みた計画の立案遂行のため人件費や調査費 作家活動の継続のための資金 生活費用および次の発表機会の準備 自分はフリーランスだが、これまで収入が安定せずギリギリで生活していた。今後コロナによって経済の収入が不安定になることが見込まれるのでこの金額を想定 計3カ所の展覧会予定が延期あるいは開催未定となったため、その損失補填として 2カ月の生活費 本年度くなってしまった事業の金額はこの額をはるかに上回るが、新たに活動をスタートするにあたり、個人向けシードマネーとしてはこのくらいあるとうれしい 予定されていた活動で得る事ができる予定であった収入。また、延期されたことにより出た損害 家賃などの固定支出と次の収入を得るまでの当座の生活費、材料費(素材) アトリエ維持費(約半年分) 若手作家のためのギャラリー設立の運用資金 活動再開時期までの最低限の様々な現状維持 月額10万×5回

	<p><b>3 カ月分の固定費</b>          新規ビジネス、新規活動を立ち上げるにあたっての初期投資(配信用の機材セット、ソフトウェア費用等)、生活費等</p> <p><b>事業継続のための投資</b>          今年設立 15 周年記念事業を計画していたが、助成金は取り消し、参加予定作家は渡航中止でイベント自体が来年に延期されたので</p> <p><b>生活維持費、材料費</b>          (最低でも 50 万円以上の支援助成が必要) それ以下でも有り難いのだが、申請、報告等の労力を考慮すると上記の額以上が望ましい。また 10 万程度の助成では、現状に対して焼け石に水</p>
50～100 万円	<p>既にキャンセルされた案件の補填金額程度</p> <p>コロナによってキャンセルになった展示販売、授業、ワークショップなどに対する補填として</p> <p>生活費・制作費の補助として。金額は収入が減少する期間による          (規模、期間などもよるが)もし 10 万円だけだとすると身の回りのことを整理するだけで消えてしまい、他者との協働までに至らない</p>
40 万円	<p>生活苦のため、作家活動がたちゆかない</p> <p>既存のプロジェクトの延期により、キャンセル(返金)ができなかつた航空券、宿泊費の補填</p> <p>作業場(工房)のために必要な最低の維持費が、年間でこれくらい</p> <p>家賃、スタジオ代、固定費で月 20 万かかるが、秋まであった収入予定が全てなくなってしまった。今後の見通しが立たないが、とりあえずの緊急支援が必要である。とりあえずの 2 カ月分</p> <p>アートフェアで見込まれていた収入分と、アート講師として直接指導が困難になったことからの収入減少の補填(2.5 カ月分)として</p>
30 万円	<p><b>2 カ月分の生活費</b>          少額すぎると意味がないが、あまり大きい額だと少数にしか行かない。そうなると、結局助成金を取るのがうまい人にしかお金が行かなくなる</p> <p><b>プロジェクトの立ち上げ</b>          制作資金や搬入出の経費のため(謝礼がなくなる、大幅減額、経費が出なくなっているなどのため)。また、スタッフとして入っていた展覧会が中止になり、人件費の支払いがされないままになっているため。</p> <p>イベントの中止あるいは延期によって発生した損失と、休業中に発生する支払い請求を鑑みて回答</p> <p><b>4、5 月の収入分</b>  <math>10 \times 3</math> カ月</p> <p><b>生活費補填と仕事状況を変えることへの投資</b>          オンラインによる発表やプロジェクト推進のため機材や人件費などのスタートアップ費用</p> <p>家賃、展示販売による売り上げ見込みで支出する予定だった材料費</p> <p>設備固定費とイベント中止に伴う処理費</p> <p>飯を食うための仕事の方も減産が続いているため最低 2 カ月は生活の心配をしなくてもいい状態、環境を作らないと作品作りなど到底できない</p> <p><b>生活費 + 制作費</b>          アトリエ維持費に必要</p> <p>安く手に入らなくなってしまった材料費、活動費等</p> <p><b>次の活動に繋げるための最低限の額</b>          1 カ月の固定費のおおよその金額。もちろん金額が多ければうれしいが、高望みはせず、まずは 1 カ月でも凌げるような金額を</p> <p>今年春にやる予定だった展覧会の会場費と広告費</p> <p>本来あるはずであった発表機会のキャンセル(それによって受け取る制作費もなくなってしまう)、またアーティストレジデンスなどの金銭的支援を受けながらの制作などもこの状況では難しい。それらの損失を仮定するとこのような額になると思われる</p> <p>個展などの発表時にかかる DM ポスター、レンタカー、人件費、グッズ制作などの費用</p> <p>プロジェクトを何かしら動かせる少なすぎず多すぎずの金額。これ位を多くの人に行くとよいかと思う</p> <p>展示に合わせて制作したものの、急な自粛により保管場所もなく、経費が嵩む</p> <p>IT 環境を見直し、整えるために 10 万円では不足すると考へるので</p> <p>プロジェクトの期間、制作費と生活費を両立し何とか生きていける最低の額</p> <p>いくつかの助成を受けければ、1 件あたりはこれくらいの額でよいかと思う</p> <p><b>3 カ月分の収入減額分(生活費)</b>          展示が延期し申請が通った助成金が支払われるかわからない。展示できてもコロナ対策を講じた展示空間が必要になるかもしれない。長期化するのであれば今後アトリエ・倉庫にかかる家賃・費用が不安</p> <p>コロナ自粛で夫婦とも収入が激減したことと、子供の保育園が自粛になったことにより制作時間がほとんどなくなったため保育園自粛解除までの保育サポートを頼む費用として</p> <p>(1 カ月 30 万円) 生活費、美術活動をギリギリ続けていける金額</p> <p>(10 万円×3 カ月) Basic な生活支援</p> <p>(最低 1 カ月 30 万円程度) 駅前の施設の家賃&amp;光熱費などの固定費を支援してもらえば有り難い。固定費にとられるところを活動費にまわせる。自由な用途に使える。</p> <p>(最低 30 万円) スペース運営における維持費 2 カ月分</p>
25 万円	<p><b>延期、中止になったイベントでの収入予定</b>          フリーランスとしての働き方の変化のための準備や、安全面を考慮した活動を含めた 1 カ月程度分の一時的な必要費用</p> <p>展示が中止となった 2 カ月間のギャラリーの維持費</p>

20~50万円	固定の収入に関しては別基盤があるがプロジェクト単位で減った収入に関して補填するような制度。もしくは、今回の事態にからめて新たに制作するような制度が望ましい
20~30万円	(世界的に感染症が収束するまで毎月 20~30 万円) 生活費を補うため。アーティストのように販売できる作品がない立場であるうえ、原稿料等では食べていけない
20 万円	<p>活動している任意のアート団体の当面の活動費      コロナになり制作ができなくなった制作を続ける費用。渡航、滞在費など。もっと少額の渡航費のみ(5万など)でも助かる      滞在していたアーティストが帰国できなくなったので、その支援金      催しを開催する費用(作品発表の場を作るため)      せめても生活費(本当の損失額は 180 万円ですがそんな金額は通らないでしょう)      イベント延期にまつわる諸経費として適当な額      今年予定している展示のための貯蓄から生活費に補填した金額      日本の有利子奖学金では貰えない分を貰いたい(まとまった制作費が必要)      開催中止になった展覧会の準備にかかった費用、制作時間として仕事を行なった事に対する賃金としての必要額      最低限の固定費が 1 カ月 10 万円として、2 カ月分      今年度実施予定のプロジェクト補てんのため      スタジオの家賃、素材費のため      (20 万円/年)活動の固定費にかかる家賃等にあてたい。都市部と地方で地域差があると思うが、私が在住する地域だとこのくらいの支援額を個人として支援いただけないと大きな助けになるため      (20 万円を複数月にわたって)一時的にその場をしのいても継続できなければ意味がないから      (1 カ月あたり 20 万円)アトリエの維持と画材等の最低限の購入および光熱費      (月当たり 20 万円)固定費に充てるため(緊急時のみ期間限定でよいと思う)      (半年で 20 万円)絵画教室運営や講師としての派遣の仕事が全て休みになつたので固定収入分      (1 カ月 20 万円)拠点をもつてるので固定費として必要額であり、現在の月額の損失額      (1 件あたり年間 200 万円を 3 年間)今まで外部での企画をしたときにどうしても必要だった経費(会場レンタル費)として。入場料收入で会場費までをまかなうのはかなり負担が大きい。会場費を考えず 1 年に 1 回だけでも、思いつきりやりたいことをできる支援があればと思う。もしくは年間 200 万円で違うスキルを持った人を雇って、今回のような在宅でも楽しめるシステムを作る人を雇う、という使途を選ぶという選択肢があつてもいいと思う</p>
15~20 万円	月に必要な金額
15 万円	<p>月の生活費にかかる最低費用。毎月給付するか、まとめて貰えると助かる      アトリエ代が月 3.2 万円かかっている      千葉にアトリエを借りていたが、東京から移動ができないため急遽近場でアトリエを借りた。働きず、収入が減った      「アートにエールを」のような助成金の仕方がアーティスト達の作品の意欲にもつながり、アーティストを支えているギャラリストや映像関係の人々にもよい方向に働くと思う。アートにエールをでは助成金 1 人 10 万だったが、映像作品一本作ることに対してもらう金額が 15 万なら監督やプロデューサーなどに見合っていると思った      収入が無い分制作費が必要になるため</p>
14 万円	使用できないが払い続けるアトリエ代
12 万円	<p>1 カ月 1 万円の補助だけでも、変わる気がする      賃料      (月 12 万円)(コロナが収束して、仕事が戻るまで) 月々の家賃、高熱費、食費、社会保障費、生活を維持する最低限</p>
10~20 万円	一時的な生活費 + 制作費(画材、機材、人件費などとして)
10 万円	<p>休止中である絵画教室の講師料 2 カ月分と、中止・延期となった展示およびワークショップの収入を低めに見積もった金額の合算です。      アトリエ維持のため(家賃)      金額はもっと多い方がもちろん助かりますが、在宅でできるフリーランスの仕事がなく、新しいアルバイトも探すことができないような緊急時にとりあえず 1 カ月は家賃+光熱費と食費の一部がまかなえる最低ラインの金額としての 10 万円      春から夏にかけて展覧会が企画されていた 3 本がなくなり、作品売上からの収入の 10% でもあるとかなり助かる      そもそも収益はほぼないので(生活費は別の仕事で補っている)、当面の画材費として使う金額      欲を言い出せばキリが無いし、現実味も無いので漠然と考えた      以前受けた助成金と同額      損失・未払い分充当のため      オンライン、在宅ワークで必要なハードや通信環境など。これは自分自身の上の金額だが、聴取者や参加者におけるその環境整備となると、もっと多くの支援額が必要になるかも      固定費の支払い(10 万円/月)      アーティスト当事者として:そもそもアーティストが生きていける仕組みがなく、わたしたちは普通に働きながらアートでの収入も得ながら生活している。アートでの収入がいま一時的であれ減少していく、発表の機会も減っていて、普通に派遣社員などで働くにあたっての給料も非正規雇用なので真っ先に減</p>

	らされている。生活者としての 5 万円+芸術家としての 5 万円が日々補填されたら、豊かな創作活動が行える(10 万円/月)
	場所を維持するための家賃等当面の繋ぎ資金として(10 万円/月)
	収入が回復するまで(10 万円/月)
	(1 回 10 万円を複数回) 収入が減ってしまったためそのほとんどを生活費に当てる事を余儀なくされたり、少しでも制作費・それにかかる経費に当てられるお金がほしい
	(月間 10 万円程度) 制作機材の更新、運営するスペースの維持費
	(毎月 10 万円を 2~5 年程度) 作家を育てるための資金、生活の保障として
8 万円	(月 8 万円) アルバイトを減らし、現在借りている奨学金を含め研究に専念する場合に、去年 1 年の動きから考えうる、活動しやすい金額
5 万円	会場費 制作費。私は書家なので材料の紙や墨等 (5 万円/月 × 活動が制限される月数) 家賃やスタジオ家賃の一部をカバーしつつ、多くの人に行き渡り得る金額として想定した。私は現在オランダ在住で、ロックダウン中の 3 月から 5 月までの間、個人事業主向けに月あたり最高で 10 万円程度の支援が 3 カ月ある。設問 4 についてはもし自分が日本にいたとしたらと想定して答えた (月 5 万円) スタジオ賃料(光熱費込み)をカバーし、活動そのものを継続できるため。 (毎月 5 万円) 収入が減り、制作費にまわす余剰がなくなったため、制作費ないしは家賃補助として使える支援がほしい
3 万円	制作環境の家賃代 (3 万円/月) 展覧会に付随するイベントを行えないでのその収入分の補填
いくらでも	1 万円でも、いくらでも大変うれしい。資金難のなかご助成をいただけるだけで本当にありがたいから

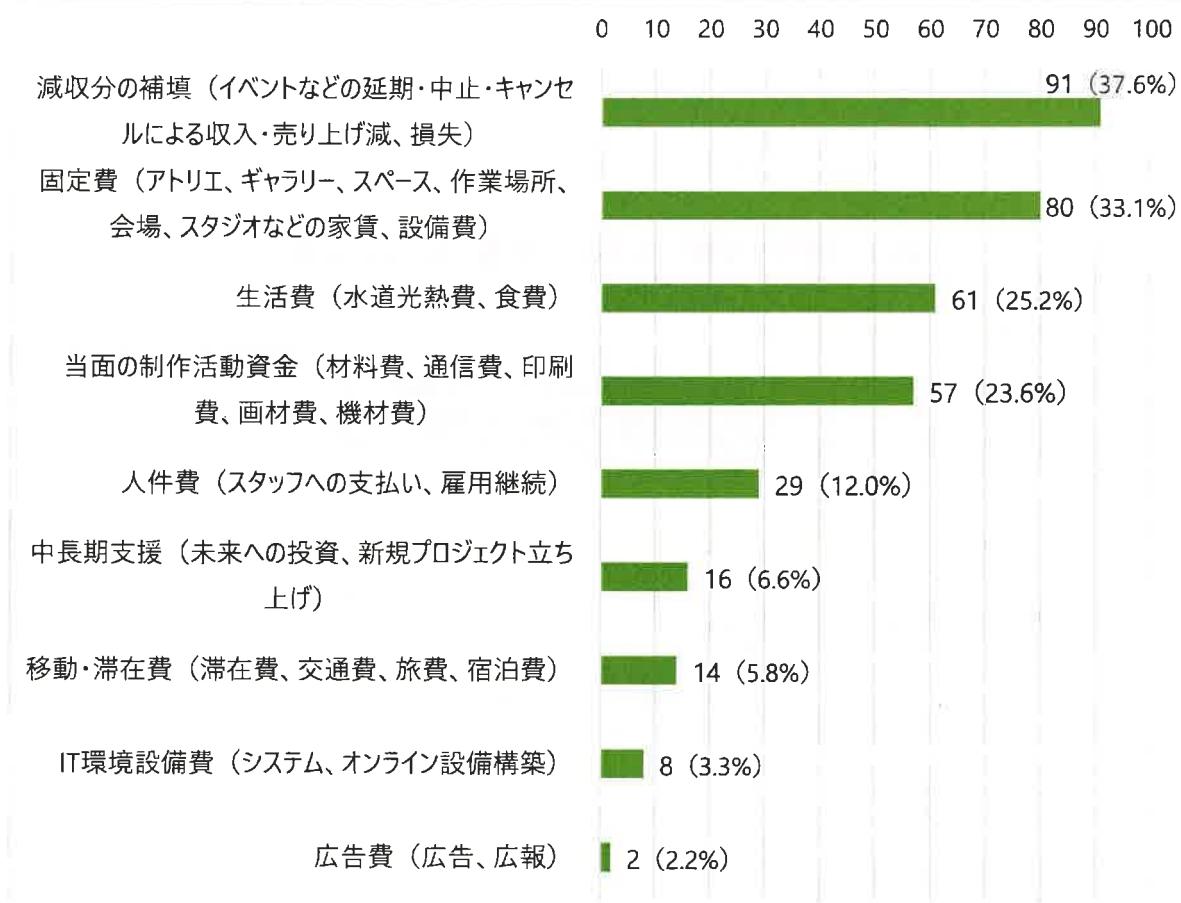


図 4 【必要な支援額の理由の内容分類 (N=242、任意)】

※ 1つの回答に複数の内容が含まれている記述はそれぞれカウントした

## 6) 現状や今後についての意見等

「現状や今後についての意見等」を自由記述(必須)で尋ねたところ、354名から回答を得た。貴重な声をできるだけ共有し、記録として残すことも本アンケートの大変な役割であると考え、ここでは「特にない」との回答を除くすべての記述を掲載する。なお、回答者が特定されないよう固有名称等は省き、趣旨を変えない範囲で回答をまとめた(表3)。

回答内容は、①コロナによる影響の具体的な内容、②必要としている支援の具体的な内容とその理由、③現状取り組んでいること／今後に向けて考えていること、④現在の社会、文化・芸術を取り巻く状況に対しての意見、⑤全般的な意見、に大別できる。

①については、中止・延期・自粛の実態・実例と、先が見えない中の不安が多く語られた。中止・延期・自粛という単純な語句では伝えきれない、個別の事情が明らかになった。②についても選択肢の回答だけでは見えにくい詳細なニーズが挙げられている。損害や困難について多数語られる一方で、③では、現状模索している事柄や今後に向けて新たに取り組み始めていることについて記述されている。損害と同時に、こうした動きも、美術関係者間で共有し、助成団体や支援者が把握しておくことは重要であろう。④に関しては、緊急時のみならず、常日頃からの課題についても、多くの重要な指摘がなされている。⑤はそれぞれに大変貴重な意見を頂戴した。

※ ハイライトは本稿執筆者による。黄色:コロナの影響、水色:必要な支援、緑:現状の対応

表3 【現状や今後についてのご意見等 (N=354、必須)】

これまで積み上げられてきた芸術文化の流れが分断されてしまわないよう努力しないといけない
収入減と見通しが立たない不安がある (自分の場合複数の事業を持っており今のところ大きな経済的な打撃はないが)、作家活動以外に何も収入のないアーティストには、自粛期間中に入金予定だった収入と同額の助成が必要だと思う
収入が途絶えて困っている。現代美術、文化芸術に特化した仕事の相談窓口があると助かる 新しい価値観が生まれ、新たな未来に早く新世界をどのように生きるかを模索。人と芸術の価値が大きく変わり国境や地球規模で様々な問題が浮き彫りになるだろう。そこに芸術の本当の意味が生まれる事を期待する。
助成団体が増えるのは喜ばしい 先が見越せないため、今後の活動に見通しが立たない。活動をともにする人の住む場所により、活動可能範囲の格差があり、さまざまな地域差が活動の円滑な遂行を妨げる一因を生んでしまっている
例えば、収入源を絶たれたアーティストを対象として、2カ月間延命させて、その後活動の再スタートラインに立てるような支援プログラムはできないか。生活困窮に直面し、アーティスト活動の中止(廃業)を余儀なくされた人を優先的に救えるような支援制度が必要。アーティストの多くが副業をしながら活動しており、その多くは非正規雇用、コロナ禍の社会停滞の煽りを真っ先に受ける立場。今は社会全体が先行き不透明なので活動計画や使途を定められない。使途を明確にしなければ応募できない応募要項は、申請の段階で無理が出る。審査対象を助成金の使途プランではなく、コロナ禍で感じていることの記述文章と、コロナ以後の未来へのアーティストとしてのビジョンとするなど。現在の状況に特化したものがあればよい
しんどい
発表の場の再開を強く望む おそらく、今後自粛要請と解除が繰り返される日々で、今までと同じペースでのイベントの実施は難しい。そうになった時にどうやって文化を守るのか。アート分野の経済をどのように衰退させないか。10年後20年後を見据えて、目下数年先まで、何らかのサポートがいただけるとよい
百貨店などを中心に展示販売をしているアーティストだが、仕事である作品発表の場がなくなり、経済的に活動がままならなくなった。非常勤講師でもあるが授業も全てキャンセルとなった。その生活が続くうち、無用の存在であるという鬱状態に陥り、安定した制作活動 자체が難しくなり、収束後の活動も不安
前例のない事態で、とかく要件が複雑になりがち。用途・支援対象が明確な制度が、複数用意され、各人が事務に合ったものを活用することが望ましい。現状は中長期的な展望を見据えた制作のタームに入った。生活の補助は国がすべきものと考えるので、活動の転換を余儀なくされるアーティストの、あたらしい実践のための支援がなされればと思う。助成や補助金は大変ありがたいことには違いない

大不況になるだろうから、当然アートマーケットも冷え込み、美術館への予算も削られると予測する。その際に中長期的な視点での芸術支援が必要となる。 <b>不況時にアート活動を維持させ、ギリギリでもアーティストの生活を生かすための助成が必要</b>
<b>草の根活動を支援してほしい</b> 昨年度に決まり準備していた企画が全8件中5本中止・延期になり、事業収入およそ700万円分(今年度収入予定の3分の2程度)が無くなった。その他の企画も未だに実施等は未定 現状、 <b>生活や制作活動(撮影など)</b> が思うように行えず息苦しさを感じる。日本では、アーティストの支援は海外と比べて非常に低く感じることが多く、政府もひどい有り様のため、今回の件もアーティストへの支援にあまり期待はしていないが、 <b>声を挙げないことに何も始まらない</b> 美術分野も映像やパフォーマンスなど創作プロセスにおいて大勢の人が関わる形態のものについて、より即効性のある支援が必要。一方、作家からの作品購入という形での支援も複合的に展開すべき 展覧会などの延期によって、元々の文脈やコンセプトを現状を鑑みて一から練り直すような事態になっている。延期やキャンセルに対する現状支援だけでなく、継続的なサポートが必要である。
すでに十分に補助を受けている方ではなく、現代美術のような未来ある分野に比重をおくべき 基本的に収入が不安定なので、経済基盤は複数持つており堅柔で困ることはないアーティストが身の回りには多いが、ライブハウスや音楽などデイリーの収入に頼るものと違い影響が数カ月から年単位で起きる アートを支援する様々な動きがあることはとても有難い。予想以上に多いと感じる <b>元に戻る</b> という感覚ではなく、 <b>以へ進む</b> 心持ちで表現活動をどのように共有しうるのか考えていきたい 春の主催アートイベントが中止になり、可能なら秋に延期と考え助成金の二次募集の応募も考えたが、先が見えず見合わせようか思案中。開催できたとしてもボランティアスタッフが集まらないのではないか、 <b>スタッフが集まつた際に感染症予防が徹底できるかも不安</b>
<b>今できることを考え、今後の活動につなげてゆく</b> 京都市などの支援策も素晴らしいとは思うが、明日の生活も不安なこの状況下でプランの実現を求めるこに現実味のなさを感じる。そこで選ばれるような優秀な企画制作者のみに支援が偏ると、美術人間全体の母数が減ってしまう。目に見える成果はなくとも、未来のよい作品に向けて制作を続けられる環境の支援が必要ではないか。特に、ハイドで食いつないでいたり、後ろ盾のない駆け出しのアーティストがアートを諦めるようなことのないよう助けてほしい。個人的な事情で住宅確保給付金が受けられない。災下においてもある程度の資産を守る権利が保証されてほしい。 制作だけでなく <b>美術に関する研究者たちも、図書館の閉鎖、作家に会えず作品を見られない等のことによる研究阻害</b> が起きている。制作者演奏者演技者だけでなく、その批評者や記述者研究者にも影響が大きいことを知ってほしい。国境を越えて現場を歩くこともままならない状況の中で、 <b>近代国家主義</b> が作った制度に回り込みに美術を研究し続けるために努力を続けたい。
展覧会が延期や中止になるかもしれないが、先に制作は進めておく必要があり、費用負担が大きくなっている。二転三転する状況に応じて <b>プランを変更する</b> 負担も大きいです。開催となつても積極的に広報をしつらい状況。空間が密にならないことを考慮していると、充分な集客も望めないうえ、コロナ拡大予防対策・対応のための費用もかかります。そもそも十分な間隔をとれる広さのないスペースも多い。会場スタッフへのリスクもある。このような状況のなかでも、希望通り入れないことへのクレームは一定数あり、その対応の精神的負担も大きい。開催場所が自粛解除方向に向かっている場合でも、他府県の場合、作家の移動が制限され、作業に立ち会うことができず、開催を延期せざるを得ない状況にあります。観客の移動範囲も制限されると、現代美術分野は遠方からの観客も多いため集客も厳しい。ネットで見てもらう動きもあるが、 <b>インスタレーションやインタラクティブなタイプの作品は伝えることは難しく、収益につながる形(有料)で見てもらうことはさらに難しい</b> 自民党よりも官僚に大きな問題があるのでは
現状は <b>認知のアーティストと会議をして、コロナ収束後の活動案を練つて</b> 私は若手作家で今年は展示企画で企業から助成金をもらった活動も準備している。今回のコロナ状況で、他の芸術分野(主に演劇や音楽)と比較して、芸術分野は <b>お金を求める</b> ににくいと思った。決して必要無いと言うわけではないが、 <b>補償金をどう求めていくべきかが分からぬ</b> アーティストやフリーランスが加入できる <b>保障制度</b> があるとよい 来年度以降の企業主催アートイベントの縮小や中止が心配。今年企業の収益が減ることでの直接的な影響と、税収が減ることで政府や地方自治体が文化予算を減らす可能性もあるだろうと予測している <b>コロナと共に、コロナ後の新しい活動のあり方を考え、実験していくかないと、生き残れない</b> コロナ禍で <b>2つのプロジェクト</b> が延期・遅延。発表場所や時期が不透明になり、 <b>費用の計算や計画</b> ができないため不安を抱えている 現代アートへの影響は <b>長期的に遅延してやってくる</b> 。制作機会がなくなり、発表機会がなくなると、それに伴いコレクターへの販売ができなくなり収入減。また製作費が入るような展示も延期。入場者収入など元よりないので即時でわかりやすいダメージはないが、現在の懸念が数年にわたって続き、いつのまにかとても苦しい状況になるということがあり得る 映像作品の制作に関して野外撮影の自粛を余儀なくされているが、今後撮影を行えるか未定である。公共の交通機関利用を極力避ける状況がしばらく続くのであれば、作品制作のための移動手段に長期間車を借りるなど大きな出費も避けられない 作家としては、 <b>国内の活動制限</b> による収入損失よりも海外の発表の場を失う方が長い目で考えると辛い 公的補助金の仕組みから漏れてしまう芸術家や団体を救う助成金があつたらよい。芸術関係者同士で制度について教え合い助け合ったり、制度の欠陥について政府に提言するコミュニティを育むことも必要 美術の助成に関するアンケートだが、まずは国民みなさん(もちろんアーティスト込)に支援をすべきだと思う。いらない人や会社で支払える場合は、各自や会社が管理して受け取らないようにする

<p>アトリエが年内で打ち切りになり、なんとか続けたい</p> <p>事業助成ではなく、固定費の助成が必要</p> <p>withコロナの中でも展開できる方法を模索しているが、現状を克服する方法がなかなか見つからない</p> <p>国や地方自治体でサポートを得られにくいカテゴリーや、小さな活動を続ける個人や団体に民間の支援が広く届けられることを期待</p> <p>芸術家が、実質的な活動や仕事(ワークショップ講師など)が減少し収入がなくなってしまっても、創作活動や研究などに取り組むことができるための支援があれば、私に限らず、多くの芸術家が今ある時間をより有効に使いつまされるアイデアや作品は、未来への種となり得る</p> <p>アーティストやアート関係者に仕事を提供するためにも、個人やフリーランスに支援する方策を考えてほしい。</p> <p>事業を立ち上げる準備や実施期間へ通常より長く支援をしてもらわないと、マイナスから再起るのは困難。</p> <p>今はなにも発表もせず、時期が来るのを待つのみ。子供を育てているが普段通えている保育園に通園もできず、制作もお昼寝の時にしかできない</p> <p>個人の美術家で、制作では生計が立たずフリー編集者として収入を得ているが、そちらの収入が減少し、生活不安がある。秋に個展の予定だが、生活費がなくなると、働けるようになつた時に制作より賃労働を優先せざるを得なくなり、予定が狂う可能性がある(雇用契約ではなく請負のため、休業補償がまったく得られない)。心理的負荷も高い</p> <p>予定されていた活動が全て延期・中止になり、見込んでいた収益が全て失われた。今後の活動はどうするか先が見えない。私に限ったことではなく、我が国で表現活動を行う全ての人びと、団体に生じている事態であり、我が国の貴重な文化資本が損なわれてしまう危機であると考える。その国の有名無名、一定の世代からは一見無価値に見えるサブカルチャーから誰もが価値を認める伝統文化を問わず、それぞれの文化は複雑かつ相互に連関し相互作用しあっている。こうした文化資源の生態系は短期的な経済価値では図ることのできないものであるが、一度損なわれてしまうと回復に長い年月を要し、これは我が国に暮らす子どもたちから若者、現役の社会人、人生の終盤に差し掛かった方々すべての世代、さらには諸外国との文化的交流にとって多大な損失である。一刻も早い対応を求める</p> <p>春から非常勤の仕事があったが、雇用条件と実際の現状と変わって、オンライン授業により、給料、本来の日数以上に働いている。規制によりアトリエにも行ける状態ではなく、制作がストップしている。お金もないので材料費が出来ない。食費も危うく、実家に戻っている状況。アルバイトをしていた場所が倒産し、解雇された。</p> <p>連休を終えて、仕事や家庭における心身の疲労のピークも過ぎて、ようやく現状に冷静に対応できる時期に入った。具体的には持続化給付金、生活福祉資金貸付制度などの申請に入った。しかし次の活動に向けての指針や予定は全く立たず、具体性のないプランの創出が闇の山である。延期となったイベントは予定の再調整に入つたが正式決定にはまだ時間がかかりそうである。アトリエが公共施設内に設置されているため現在市の意向で閉鎖されており、この自粛期間に作品制作を行いたいがそれも再開の目処がたたない。自宅での小マケットの制作程度しか活動ができていない。今後の見通しが立たないのが正直な意見である。ただ、この現状から今後の活動に何かフレイクスルーできるアイデアを考えてほしい。</p> <p>今年3月に大学を卒業し、フリーで始めたばかり。収入源が少なく、また専門分野を活かした仕事の働き場所がコロナの影響でない(予定していた仕事も断られた)昨年は学生で特に収入も大きくななく確定申告をしていなかったため、収入減少を証明するのが難しい。一人暮らしなので毎月の家賃が痛い。学生と社会人の間のややこしいところに落っこちた感じ。全体の割合としてはこういう方は少ないので、そうした人向けの助成は期待できない。アーティスト志望で今年3月に卒業した人たちは同じような状況だと思う</p> <p>企画はもちろん、リサーチ含め、すべてがキャンセルとなり仕事がほぼなくなった</p> <p>展覧会予定が未定になり、作品販売も未定になり、これから作家として作品を知つてもらう機会をコロナで遮断された状況。作品のための額をオーダーしにいくのもコロナの影響で自粛せざるを得ない</p> <p>当施設にはヨーロッパ在住の日本人アーティストが3月中旬まで滞在しており、EUの入域制限により帰国できなくなってしまった。国内に滞在先があつたので何とかなつたが、本人の疲弊の様子を見ると何か支援できないか悩ましい。日本でも活動国でも何のアーティスト支援も受けられない、制度の狭間にいる</p> <p>講師で製作費を確保し、海外でお金を得て活動し、それが実績となり国内の活動機会も広がっていたが、海外渡航も今や心配だしそもそもイベント自体が不安。何をどう変えて作家活動を維持すればよいか全くわからない</p> <p>シェアスタジオを利用しているが、その施設のディレクターは自身が活動自粛しない考えのため、私が緊急事態宣言以降スタジオに行くことを控え、在宅での制作作業に切り替え専念していることを批判された。ともすると「シェアスタジオを活用していないこと」を理由に追い出されるかもしれない。少なくともそのディレクターからプレッシャーを受けられている。こうしたこと(コロナ禍に関連するパワハラ)を相談する先がない</p> <p>事業実施や表現を提供することによる対価としての助成はあるが、それらを行うための準備(設備面、人的サポート)として投じられる資金提供助成が必要</p> <p>次世代へ向けた体験の機会が減ることを危惧する</p> <p>1: 平時と有事を分けて考えるべき。自治体によっては「緊急」と謳いつつ、平時と同様の使途、手続き、報告を要請している。2:これを機に寄付文化を根づかせるべく、税制を変えるといい</p> <p>作品はオンラインやネットでは伝わらない内容、自分自身の趣旨にそぐわない発信方法なので、収束後に満りなく発表やそれまで活動経緯が出来る環境が必要</p> <p>現代美術分野では、国際的に著名な作家ですら助成金をあてにする状態で、若手・中堅作家が今まで頼っていた助成を受けられなくなっている事例もある。文化の裾野を広げるため、幅広い表現者に対する助成制度が設立されることを希望</p> <p>新規企画なども考えていきたいが、あまりに状況の変化が速く、しばらくはできればこれに流されずに、これまで行ってきたことを振り返る時間として考えたい。アーカイフをしたり、どういう活動だったのかを自己評価したり、発信方法についてももっとちゃんと考えたり。その上で、その延長上にコロナという新たな状況に何ができるかを考えていきたい</p> <p>ギャラリーを支援してほしい</p>
--

<p>オンライン環境でのアートプロジェクトの限界について常々考える 美術分野のアーティストは、自身の困難な状況、特に経済的な支援についての必要性、現状を訴えることに対して不慣れであるように思われるため、信頼できる専門家がカウンセリングを行う機会、解決方法を見出すサポートをしていただく機関があるとよい</p>
<p>ほとんどの予定していた展覧会やアートフェアが延期や中止になった。契約している東京のギャラリーも存続するのに必死。関西のギャラリーも先行き不明。欧米からの仕事は2、3件来ているがその仕事だけ可動している。パンデミックで色々な事が透けて見えてきた。この国の美術館やギャラリーそして私達アーティストに政府はただボエムを送るだけだった。この国の文化活動を支援する土壤が我が国には無いのは前からわかつていたけれど、経済活動を止められた挙句、仕事も失われた状況下でアート業界また音楽業界が今後どうなってしまうのか危惧している。この先、文化活動を続けるにあたって日本で活動できるペースすら残らないのではないか？諸外国の芸術に関する価値観が自分の国とあまりに違いすぎてアートの土壤を永きに渡り守り育ってきた国とは意識の差が違すぎる。同じパンデミックの状況ではっきりと見えてきた。芸術を育てる意識が希薄すぎる。文句ばかり出てきて申し訳ないがこれを機会にもっと転換の時が来ている。</p>
<p>アート活動もしながら、アートと他分野を結ぶ仕事をご飯を食べている。業界の常識なのかわからないが、アート業界内のアーティストの日当計算があまりに低すぎて驚いた（マクドナルドのアルバイトと変わらないくらい？）。アートプロジェクトの審査で、日当を引き上げた計算をしたら、審査時に指摘された。でも私が他分野と結んだ仕事を委託事業としている場合は、ちゃんと単価がとれている。これは個人の責任論ではなく、アート業界全体としてアートの社会的価値をもっと引き上げるべき。アートの活用範囲はもっと広いはずだが、その意識が業界内で薄いのでは？とさえ思う</p>
<p>4月2日より自身で運営する店舗を休業し、助成金や融資申請などを行なながら新たな収益プロジェクトを進めたり、店舗再開に向けての様々な調整を行っている</p>
<p>文化立国を目指とするならば、このような非常時のサポートシステムがあるべき 現状は見通しが立たずただただ耐えながら接触のないようなアートとのコミュニケーションの仕方を考えていい。 私はダンスをしているため他のアートフォーム以上に接触すること、近くで感じること、ライブであることを大切にしてきたので本質的にこの事件に流されないように、うまく付き合っていく方法を今後は見出していく。 コロナの影響でオンラインで顔を出したライブコミュニケーションが身近になった。それは海外諸国と今まで以上に繋がりやすくなってくれている。日本のアートは閉鎖的だったがこれを機により世界と交流して新しいあり方を受け入れ成長したい。</p>
<p>海外で予定されていた展覧会事業が延期となった。一ヵ国の状況だけでは物事が解決しないため進行が停滞。今年度入金予定だった収入（謝金）も事業延期と共に先延ばしとなり、個人事業主であるため貯金を切り崩す生活をしている</p>
<p>本年度のアーティストインレジデンス（AIR）事業の予定が立たない。現在（5/10）2020年度（9-11月予定）の作家選考を行っているが海外作家の招聘移動ができるのか。アーティストの移動や活動が制限され、入ってくるはずの費用や活動費が乏しくなっているので簡単な手続きや用途を制限しない助成金があれば活用できる。人生観や働き方やアート特にAIRが新型コロナウイルス終息後、大きく変わると思われる。リモートの雇用形態が世間では増えると予測されているが、アートもリモートやオンラインに大きく振れてくると思う</p>
<p>現状は維持できているが、今後も影響が長期化すると活動のベースを支えている人たちの収入に影響が及び援助が途絶え、活動を維持することが立ち行かなる可能性がある</p>
<p>国内外への移動が制限され、制作のためのリサーチができなくなった</p>
<p>今後日本において活動するのに不安が大きい 活動の新たな展開について柔軟な態度で試行錯誤していくとしても、国のシステムが破綻している今、現実を乗り切るための必要最低限の助成制度が必須</p>
<p>緊急事態宣言解除後の見通しがたたないため人材を確保し続けることができず、解除後に活動再開できる予算が組まれたとしても実施する人員の保証がないことは不安</p>
<p>アルバイトが見つからないので、生活の不安</p>
<p>イベント制限、自粛で集まってする企画ができないのであれば、派遣事業を進めていきたい 海外でのレジデンスなどすでに予定が決まっており、この期間中、他の仕事などを入れないようにしていた。そのため、今から新しい仕事を見つけるのも困難、かつ今後の予定も立てられないため、オンラインでできること（ウェブサイトの充実、未リリース音源のリリースなど）しかできず、将来への不安や収入が断たれることへの焦りなどがある</p>
<p>現在はフリーランス、法人問わずみんなが厳しい状況の中知恵をしぼってさまざまな試みを行っている（ほほオンライン上でだが）。ただ重要なのはこれから。いきなりきたウイルス拡大の影響の中でビジネスを抜きにして、あの手この手で実験と実践を行っているが、ここからはそのがんばりをみんなが自分たちに還元できるよう、もう少し大枠のシステム作りとまた一段階違う発想の展開ができるかと思われる。まだこの状態では模索しながらやっていくことになるので、保障や給付や助成などで各々がお金のことだけに縛られず自分たちの表現に専念して迎える環境になってほしい</p>
<p>フリーのアートイベント企画者。展覧会やワークショップなどの企画が中止になり、また今後の開催の目処も立たず、収入の見込みがない</p>
<p>作品の売り上げが生活費の3分の1を超えるため今後が非常に不安である 財源等の課題はもとより、芸術文化活動（特に若い世代）における体験方法と価値観の変化に新たな可能性と課題の両義性を感じている。その根柢としては、自粛体制が余儀ない環境が続き、オンラインによるコミュニケーションが主流となる中で、この環境ならではの表現や活動が実験試行されることに期待する一方、（特にコロナ以前に顕著と思われる、音楽ライブやフェス以外の）デジタルネイティブ世代？のオンライン偏重的価値観の定着が顕著になる可能性が高い。オンライン美術館等々、テクノロジーを活用した観客拡張と比例して、美術・実空間における本質的価値観の希薄化（諸刃の剣的？危機感）が加速するのではないか、という今後について考えている</p>

教員などの定期収入がなく、移動、交流、滞在制作といったプロジェクトベースの作品が多いため現状なかなか厳しい。オンライン展示会形式の作りに重点を置いてなるべく早めに仕事を開催したい。2年くらいは運営体制など工夫しながらましやっていくのかなとほんやりと覚悟してきた
アートマネージメントの活動をしている。予定されていた演劇公演、コンサート、展覧会、ワークショップなどアーティストへの支払いは実施後のケースが多い。準備にかけた労力、経費は多少保障されるケースがあると思うが、小さな団体はアーティストとの契約もままならないので、当初は生活費、制作費の支援、次の段階としては発表の機会への支援があればよい
日本では文化系事業費の助成金・補助金は単年度が多いが、年度を越えて事業を延期できるよう、緊急時措置として次年度に持ち越し可能としてほしい。多くの事業が延期されることで年度末に多くの事業が集中することが予想され、年度内の日程調整が厳しい
市の外郭団体である財団に勤務。コロナショックで市の税収入の激減が予想されるなか、次年度以降市から例年並みの運営補助金が出るか不明。国の芸術文化予算も目減りするのではないか。民間への期待が強まる
このまま発表の場が減ってゆくのではないかという不安がある
継続することと、変化していくことの両面の支援が必要
ある程度の期間を安心し、プロジェクトに取り組めるような支援が必要
教室の講師料などは収入減少額を具体的に申告できるが、作品の売上額は結局自己評価による数値となるため、申告に用いることが妥当か悩ましい
廃業も検討している
休校措置により非常勤講師の収入が減った
新しい企画を立ち上げようにも状況が見えず、具体的な調整に進むことができない
予定・計画が立たない中で創作活動をするアーティスト等に対して、精神面での支援も経済的支援と共に必要他地域への行き来や集いの場が絶たれている中で、身動きのとれない作家も多い。それでも制作を続けるためのサポートとして、年度をまたいで活用できる長期的な制作資金がほしい。
アトリエ代が申請できる助成金が必要
発表の機会がなくなり、自身の制作するジャンルが絵画なのでネット通販も困難であり、先行きが見えない
自由度の高いものにしてほしい
困窮している
新たな制度ができるることを応援
発表の場の維持、制作環境の維持、個人の生活が厳しい
小さな子供を共働きで育てているが、家事・育児の時間が増大。パートナーが会社勤務のためテレワークであろうが時間の拘束は厳密なため「自由」であるアーティストが補填せざる追えない。制作に必要な「静寂」を得るために、午前3時に起きることを余儀なくされている
活動歴のあるアーティスト(個人事業主として確定申告を行った経験があるアーティスト)ばかりではなく、今年3月に大学・大学院を卒業したばかりで、就職せずにアルバイトをしながらキャリアをスタートしたばかりの人たちは、現在施行されている給付金等の申請基準を満たしていないので、困窮することが予想される
美術分野にどのような問題や課題があるか、見えて来づらい状況がある
展覧会の開催に制限があるため、限定しての開催を進めつつ、オンラインシステムの構築、または大手サイトへの登録を進めた。固定費の他に、国内外のアートフェアへの出展料の確保が難しい
表現だからといって押し並べて保護する必要はなく淘汰されるべきものは淘汰されてもよいとは思っているものの、これからこの分野を目指す人達に向けて、希望ある社会であってほしい
海外での活動にどのようにすれば今後戻れるか。海外での活動を今後より重点的に支援される態勢が取られるといよい
単一の団体・機関でできる支援はマンパワー・金額的にも限界があるため、複数機関で協働できる体制を平常時から整えておく必要性を感じる
事業を複数展開しており、1つの事業の収益を別な事業に充てるという運営計画のため、収入が断たれることすべての事業が止まってしまった
まだ小規模での実施について明確化されていないため、活動しにくい
アーティストや子供への投資プログラムを作るべき
アーティスト個人でも利用できる人材バンクの設置を希望。アート系の助成金の申請や法務的なことの商工会的な機能があると大変助かる
現在は、ひとりで作品制作に取り組める状況。収入源は閉ざされているが、発表の場が予定通りにできるか不確かになってきた
こういう環境だからこそ積極的に新規事業にチャレンジしたい
アーティストだけでなく、キュレーターやギャラリー(店舗の有無問わず)等、アート関係者の個人法人を問わない形で、生活支援や次のための活動支援がほしい。
施設勤務のため直接的個人的な打撃は受けていないが、イベントや事業が延期・中止になっている。助成金も今年度までの延期であればOKが出たものもあったが、きちんと見せることを考えると、年度単位ではなく、落ち着いた来年度まで延期ができるなどの措置があるといよい
バーチャルなオンライン展示会場(仮想空間での)に簡単に登録できるシステムとそれに運動した投げ銭システムがほしい。外出できない世界になってしまっても、予備装置としてオンラインでも催しが継続できる方法を作り簡単に使えるようにすれば中止になる事はないので、イベント開催達成率を-100%を-50%くらいには軽減できる

そもそも日本は現代美術の認知度が海外と比べて高くない。助成で成り立ってる分野もある。海外を主戦場にしているアーティストもいる。国自体の文化面での投資が少ないのでないのではないか。そこに持つて来てこのコロナ禍で生活に困窮する中で若く野心的なアーティストは育たないのでないのではないか。文化は国のイメージを作るのだからこの時点こそ資本を注入していただきたい
芸術家にとって、発表の場がないことは作品による収入が絶たれることになる。今回のような集客できない状況の中でも維持できる発表の場(ネット上の展覧会やライブ、本など)への支援と、その発表による収益が認められる助成が必要。助成が、その助成後の芸術活動の継続につながるようにするべき。発表の機会のようなイベントに対する支援とは別に、芸術家が制作を維持するための支援があつてほしい。今回のような非常事態の中でも、芸術家にはアイディアを練ったり、手を動かして何かを作り出すなど、できることがある。そういう自発的な創造力を維持すること自体が、人々にポジティブな影響を与えることができると実感している。
現状オンラインでのやり取りのみで難しい。YouTube LIVE 配信始めたが収益化は遠い
画材の購入、入手が不便になっている。活動グループ内の連絡や資料の配布が困難
野外でさえ集まることができない。芸術文化を支えた細かなコミュニケーションが否定されている。リモートではできない細やかなコミュニケーションが繊細で鈍感な私たちを支えている。成果物を出さないとお金を受け取れないのはおかしい。まさにすべきか、きちんと地に足をつけて考えられる時間に投資しなければ、文化は先細りにしかならない。前向きに思考するために、お金を配ってほしい
今後のための議論を重ねること自体もプロジェクトとして、事業としてみとめ、支援すべき。それなしによりよい未来は創造できない。
いつから再開できるのか、目安を知りたい
助成金では、職員給与や家賃など団体維持費に払えないものが多い。特に省庁や行政などはその問題点をこの機会に認識し、費用の対象を是正するように求めたい。成果物がないといけない助成金も多く、リサーチや、アートの本質を体験するようなワークショップに使えないことが多いことも問題。研究実験成果につながる長期的な企画ができにくくなり、短期的で見た目や数字のいいものしかできない。
画廊での個展が再び開催できるか不安
公設民営施設でアーティスト・イン・レジデンス(AIR)を運営しているが、行政から海外のみならず国からのアーティストの受け入れについても無期限の延期を強いられており、事業の実施について見通しが立たない。無期限の延期のため、今春参加予定のアーティストへの支援金を支払えず、そのアーティストは今年3月に大学院を出たばかりのため持続型給付金も受けられない。そうしたアーティストにも何かしらの助成があればと思って調べているが、なかなか見つからない
活動停止。職探し。経済的余裕ができたなら趣味(心の支え/アイデンティティ)として制作できる環境作りを目指す
今年の展示予定6会場中4会場が中止。1会場が延期(国内外含む)
若いアーティストへのぶ厚い支援を
政府・行政の対応にムラがあり、精神的にしんどくなっている
オンラインでの簡便かつスピーディなものが必要
通常生活の負担が増える中で、現状の芸術支援は企画前提であることが多い。アーティストの生活と制作という基本に対して國以外での生活可能な支援金制度があれば助かる
コロナ禍で今以上に複数から収入を得ていかねばと思っているので、新しい活動を創出していく
今の時点では、生活への影響はまだ大きくない。しかしアートをめぐる状況が、例えばアートフェアがオンラインに移行するなど大きく変化している。それに伴って収入を得る方法論そのものを根本的に見直さないといけないかもしれないと思いつはじめている。例えば今年の制作・発表は来年・再来年の自身の収入に関係てくる。今年の発表の機会がないということは、来年・再来年の収入が減少するということで、長期化した場合に、だんだんと生活が厳しくなっていくのではないか
現代美術の分野で活動するものの中には継続的に事業に関わるものもいれば、作家とインストーラーや、美術館でアルバイトとして働くなど、副業を立てながら活動するものもいる。業績として残りにくい活動をしている事業者に対して助成が行われる可能性が少しでもあればありがたい
支援制度によって創出される効果を成果物レベルで共有できるとよい。サマリーは件数等の数字のみでよい。収入源となるはずだった仕事を軒並み失い、見通しが立たない現状が続いている。これまでフリーランスの単発仕事を複数こなすことでなんとか制作の活動資金を捻出してきた。作家活動は毎年の収入が安定しているわけではなく、さらに、いわゆる国の給付金の対象者となるような、前年比に比べての損失という形での算出が、美術家の場合は非常にしにくいと今回の事態を経験して改めて痛感。新たな助成金制度が設立されるにあたっては、既存の制度とは異なる、より柔軟で使い方を問わない支援であれば大変ありがたい
美術系の学校を卒業後、美術とは直接関係しない仕事をしながら制作を続けていた。コロナウイルスの影響で制作以前の生活すらままならなくなり、利用していた発表場所も存続の危機に瀕し今後の活動に不安がある
私営のアートセンター、オルタナティブスペースなど、ギャラリーでも美術館でも無いところを特にサポートしてほしい。彼らはもともとボランティアみたいに日本の現代美術を支えている。潰れると本当に日本に現代美術が無くなってしまう
文化への助成は常に必要
週2~3程度のバイト、イベントや注文などのプロダクト制作、ギャラリーなどでの作品発表などで制作を続けてきた。作品発表の機会とイベントが中止になり、アルバイト収入も減り、活動収入ともに打撃がある
いろいろな先の心配事はありますか、お金の面が補助されるのは、大きな安心材料になる
コロナの行方がどうあってもできることと、それにより変貌することを踏まえた、新しい表現手段が必要であり、その手かかりをなにか行動に移したい。用途を限定しない支援金が必要
自身のプロジェクトがストップ。大切にしていた海外との交流が先行きがみえない

講師などの生活費に充てていた収入が断たれ非常に困っている。持続給付金など申請しているが対応が遅くあてにならない
ワークショップなどは人が集まるイベントに関してイメージ的な損害もあり、数年など長期にわたり支援が必要になると予想する
6月の展示も延期予定で全く見通しが立たないのでとにかくこの状況に対処するための費用がほしい。 リサーチベースの作品制作に近年取り組んで来たが、移動が制限されていること、人が集まることができないことがとても痛手となっている
今後この状況が夏ごろまで続くと、生活的に厳しくなる
文化事業への迅速な支援対応を求めている
新型コロナの終息までには長期間かかり最低限の入件費などが必要。「パーセント・フォー・アーツ条例」(公共建設費の1%前後をアート作品やアートプロジェクトのために予算を組む仕組み)など継続的なアーティスト支援策が必要
有事以外の時も手厚い支援が文化の発展につながる
イベントへのアポイントもなくなり、生活費用がぎりぎり
コロナ禍の中でのプロジェクトの作り方を考える会を開く
作品制作で直接収入を得るというよりは、展覧会の関連ワークショップや美術教育で収入を得ている美術作家だが、現状では、展覧会を開催することは勿論のこと、通常はめったに仕事が中止になることのない(=安定した収入を得られる)美術教育の仕事(大学非常勤講師)まで予定が変更となり、収入の先行きが見通せなくなっている。このように、複合的な要因が重なって、活動もできず収入も減っている美術作家が多い。この状況下では、陳述を問わない助成が幅広く必要ではないかと考える
画家だが11月の個展がなくなった。他の展覧会の企画も展示公開されるかわからない状況のまま進んでいる 先を見越すことができない以上、ある程度まとまった期間を想定した上の資金の調達と支援が必要
コロナ以前からあった様々な課題にも光が当たることを望む
美術に関する支援のアンケートに対して答えるには不適切な内容だとは思うが、そもそも日本は国民に対する生活支援や社会保障がかなり不十分なのが、結局は文化活動の大きな足かせになっている。さまざまな分野の芸術家による労働組合のようなものなどがあつて、政治家や政党に陳情、或いは提言を行う仕組みが不十分であることも大きい
トリエンナーレの開催を2021年に延期。準備してきたワークショップやパフォーマンスもできなくなり、今、再計画に追われている。参加作家も2021年の予定が立たず(経済的なことも含め)全員の展示が可能か否か心配。行政が文化芸術に理解・助成がないため、民間の助成金を獲得しているが、とてもハードルが高く、地域に理解者も少ないなか、どうやって活動を継続していくべきかとても悩んでいる
現状6月までは仕事をいただけているが、コロナや社会情勢などの不安により精神が不安定になりいつも通り働くことができず収入が減少している。とても不安
アーティストのみでなく、マネジメント人材への支援も必要
ネット販売を強化したり、コンセプトの強化をはかりながら、自宅での制作を続けていく
全てが中止・延期になり、どこを目指して活動したらよいかわからない
取り扱いギャラリーもなければ今後の展示予定もないでコロナそのものの影響はほとんど受けていない。普段から自分の余暇の大半を犠牲にして制作している私からすれば今まで私のことを「うだうだしていないで自分の居場所を作るための活動をすればいい」と言い放ったギャラリーや評論家、ライター連中が副業する努力もせず「コロナで仕事が激減したので助成金を」というのはちゃんとやらおかしい。コロナにかかわらず副業に副業を重ねている人間を支援するべきだ。
鉄かすになっているが早く再開したい
社会と芸術とを、より繋ぐ事ができる助成を希望
もともとヨーロッパのレジデンスに滞在していたが、コロナ禍によって施設が閉鎖されて急遽帰国。今年8月に1ヶ月間日本のある地方で滞在制作することになっていたが、本当に実現可能なのか様子見の状況。もともと提出していたプランでは何人か役者さんに頼んで撮影をする予定だったが、今の状況では役者さんにオファーをするのも難しい状況で、かといって話を通さなかったらいざ滞在制作可能になった場合に慌てることになるし、見通しが立たず困っている。自宅隔離の状況で、自分も含めて人々はますます文化的なものを求めているが、アーティストたちが生活に窮窮して制作を断念してしまったら、日本のアートシーンは停滞してしまう。かといって、公募制の助成金だとどうしても実績のある、つまりどちらかというと制作のためのお金と時間がすでに確保できている作家が有利になってしまって、難しいところ。若い作家を特に支援するべき。ペーシックインカムが導入されたら一番いいのだろうと思うが、まずは相互扶助のシステムがあつたらよい
展示やイベントが無くなり再開見込みも無いのでとても不安
長期的に支援してもらえると助かる
展覧会の一部、ワークショップが中止になった
日本国外に在住。多くの助成金がそうだが、日本を拠点に活動していること(すなわち日本在住)を条件にしたもののが大半。そこで今後、日本との往来が困難になる場合の柔軟な対応があればいいと思う。具体的には、海外在住でも心臓ができるもの、「日本国内の会場」以外で開催されるものへの助成など
開催時期、準備期間に活動自粛や助成金確保が困難なため
経済がまわらないと芸術分野市場も回らないので自分の制作をつづけていくにしても売り上げには不安
開催の3ヶ月前に1年間の延期が決定し、本格的に影響を受けるのは来月以降。緊急性のある支援も必要だが、今後表面化する問題はさらに深刻なものとなることが予想される。長期的な支援を視野に入れてほしい

私たちも支援はぜひほしいが、また出発点にも至っていない若者が潰されないよう、若年層への支援を充実してほしい
しばらく鑑賞者自体が美術鑑賞どころでなくなることが予想され、収支計画が立たない
絵画教室を経営。休講分の授業料が頂けないので政府の支援金が頼りになるが審査結果がどうなるのか不安
活動に利用できる施設の整備、環境の提供
今まで通りの「展覧会」以外の活動方法について考えていく必要がある。
制作活動を維持するため、中国の大学の国際博士研究生として在籍し助成をいただいて活動している。年に2回と審査が伴う4年間にわたる助成だが、生活費もサポートされ大変助かっている。日本の美術大学では高額な授業料を返済義務のある助成金でつなぎ、卒業後その返済に追われ制作活動ができなくなる人が多くて、そうなると切磋琢磨できる仲間は減り美術作品の層が薄くなるように感じる
いろんな人がオープンソースで新しい仕組みを立ち上げる必要がてくる。その期間持ちこたえられるだけの助成があるとよい
今後WEBを中心としたデジタル表現が必須となるとして、技術的な支援や技術者とのマッチングが必要になる現在、毎年継続していた事業がなくなり、今後来年度以降に活動を再開できるかもあやしい。オンラインなどに活動拠点を移し、根本的に動き方を変えなくてはならないので、実験的な活動への支援がほしい。どのような活動方法でどのような安全策を講じればいいかなど、相談や議論ができる場があるとよい
収束が見えず不安で苦悩している。活動先が病院、福祉施設や障がい児者施設、学校や児童クラブ、復興住宅などで、心の応援が必要な人々と直接コミュニケーションを取りながら行うアートプログラムのため、特に病院などは年内に活動が再開できるとは思えず忸怩たる思いでいる。加えて、ちょうど新年度より事務所の移転・切り替え、法人化への展開、障がい者が活躍できる創作工房／アートの仕事場設立に向けて挑戦を始めたときのタイミングなので、非常に苦戦を強いられている
美術分野への助成を検討するにあたり調査で現場の声を聴いてくれるだけで感謝。良き助成になるよう願う
展示が無事開催できるか分からない
予定していた展覧会に向けて制作が8割進んでいた場合、そこまでに発生したアーティストやデザイナーへのフィーは支払う予定なので、予算を超えない範囲内で、延期の実現(会場の確保、日程の調整)をするのがいくつも考慮すべき点がある。現在では夏から秋の文化事業も黄色信号が点っており、この先、年度内での延期で収まらず(延期する事業が過密していくため)年度を超えるとなると、次年度の財政事情に左右され(保証されている訳ではない)延期の実現自体も、かなり簡単でない状況
公的機関に勤務しているが、今後自治体の文化芸術分野への支出はおそらく削減されていく方向にあると思う。社会が変わった以上、これまで通りの事業展開をそのままのかたちで実施していくことは時代にそぐわず、新しい方法を模索していく必要があることは当然ではあるが、公的機関・プライベート機関・個人やフリーランスを問わず申請できる助成プログラムの数が増えたとありがたい
志のある作家を育てるための環境づくりが重要
これまで継続してきた公的機関の委託事業がなくなり、年間計画が立てられなくなってしまった
作品の金額を抑えられるように様々な努力してきた結果、買いややすい価格帯となり、今年に入って、世界に向けて、かなり販売数が伸びてきていたが、コロナ以降は、材料費と郵送費の高騰によって、作品の価格を高くせざるをえなくなり、このままだと売れない状態に戻ってしまいそう。何個かの海外のプロジェクトに誘われていたのですが、渡航自体が難しくなり、現地に向かう事はできなくなりそう。ただ、助成などをもって、延命処置をしていても、意味が無く、根本的な部分から変わつていかない、活動を続けられないと考えている。この状況を受け入れつつ動いて、新たな活路を自分で見出したい
事業を年度内での延期を決めたものの、まだ実施できるか見通しが立たず、万が一今年度中に実施できなかつた場合...アーティストや事務局、業者の方への支払いが認められるのか不安..
展示の中止、アートフェア・海外展示の予定変更・中止、企業と予定していたプロジェクト、当面の仕事が全てなくなった
美術館はそもそも収入が無い中で、コロナの影響で更に状況が悪化している。コロナの影響のみではなく、階段から助成や支援などが十分に設置されていると助かる。私がそうなのだが事務作業が苦手なアーティストが多くいためフォローしてくれる方が必要。申請手続きや報告書やその他の手続きが簡易であるととても助かるいつまで続くのか分からず、期限もわからない、生活支援も含め数回は繰り越して支障金を、せめて目処がつくまで
受け入れてくれるコミュニティがあってこそ作品は存在する。ギャラリーなりコミュニティの作品展なり、展示と鑑賞がセットとなった形式が成立しなくなるかもしれない漠然とした不安がある
現状はキャリアのある個別の作家へのピンポイントの支援よりも、自腹を切ってでもなんとか続けているような作家への支援が望まれる
非営利目的、法人格を持たない個人としてプロジェクト単位で行うスペース運営を自身の創作活動と併行して行っている。そのため現在の政府、行政からの支援には該当せず、日々の創作活動は続けながらも、収入源をアーティスト活動・スペース運営とは別で工面していたためその先が絶たれ、二次的に存続の危機に立たされており、今年度の予定が全て白紙になり、次のアクションを起こそうにも資金がなく、危機的な状況
通常生活の負担が増える中で、現状の芸術支援は企画前提であることが多い。アーティストの生活と制作という基本に対して國以外での生活可能な支援金制度があれば助かる
先行きが見えない中で活動以前の生活の維持が難しい
アーティストは制作をし、発表が宝の様な機会。流れてしまった機会はもう二度と戻ってこない。機会を得ることができると、助けていただきたい
作品発表の方法は、作品内容とわかち難い。今まで大切にしてきた事をどのようにしたら護ることができるのか、ずっと考えている

非常時には幅広い支援が求められることから、助成等給付額は低く設定せざるを得ない。コロナ禍以前から活動基盤の弱い領域・分野または地方都市のアーティストが、特に影響の出方が早く逼迫度が高いが、地域内のアーティスト同士の助け合いや話し合いが見られ、社会的孤立は避けられているように思われる。肩笑な活動を続けてきたアーティスト(古典芸能、現代アート等分野に関わらず)は、この期間をある種ナハティカル的に捉え、冷静かつ意欲的に、新たなりアリティ／来るべき社会をしっかりと分析し、自己の表現へと昇華しようと模索している。その姿勢は、さすがである。財源確保の問題は常につきまとだが、緊急の生活維持に関わるフェースの間から、同時に新たな表現へのチャレンジを促進する賛賞的支援も必要であろう。ただし、平時からこうしたチャレンジを後押しするような助成制度も必要である事を鑑みるに、この緊急事に留まらない持続的な制度設計を求めていきたいところ…。(‘・ω・)

「アートは不要不急ではなく、必須である」と、今回のコロナ自粛で改めて感じた。それはアーティスト本人からしっかり発信しないといけないと感じた

#### 過去の状況で活動を行うのは厳しい

多くの人に支援が行き届くようにしてほしい。金額の大小ではない

今回のように人を集めることができない時に、発表の形式をどのようにするのか考えている

現状、活動拠点であった大学は閉鎖され、5月末まで制作活動は自由に行えなくなった。県をまたいた行動の自粛もされるなか、研究内容に向き合うのが難しい1年となる。予期せぬ感染症により予定された研究のペースがずれたことが、留年や奨学金貸与除外という結果につながらないか不安を抱えている

今年の冬に予想される新型コロナウイルスの第二波への対策を何が必要なのか早急に分析して対策を早急に進めるべき

これまでの活動の方向性を大きく変化させる必要がある

これまでこれからもこのままだと永遠に日本に文化芸術は育たない

個展を開催中に休業要請の煽りを受けた状況だが、それに伴う損害額を証明するのが難しい(そもそも何点作品が売れる予定であったなどは誰にも判断ができない)。コンスタントな収入でない上に、今年に入ってから開業届を提出したため、昨年同時期との金額差を判断基準にされると該当者から外れるので困っている

アーティストのための労働組合、就業支援相談所の設立、アーティストの収入と生活が安定しなからも検討が行われない制度とマーケット設立に対する助成

「助成」という直接的な支援と併せて、芸術文化分野全体を社会に対して価値化していく政策提言をして頂けるとよい。コロナがいつ収束するか万全とした不安があり、金銭面での支援だけでなく、芸術文化の意義が社会から求められることがあると勇気づけられる

収益事業が不可能な状態なので「全予算の2分の1」的な助成は難しくなるだろう。また現在貯金を切り崩して通常事業を継続しているので、今までのよう「助成金後払い」はきつくなる。また今までのよう「イベント」をすることが難しいので、活動助成ではなく、日常の活動への助成が重要になる

#### 美術館や、アート関連の個人事業者への援助を促進してほしい

作品やワークショップを通して、人ととのつながりを形成することも、美術が担えることの一つと考える。ソーシャルディスタンスを保ちながら、ネットでつながる可能性は今後も増える一方、まったく知らない誰かと、偶然その場と一緒に過ごすというような不確実性に対応する機会や、意見の異なる人と対話する機会は激減し、より分かりやすくクリーンな社会が求められてくる風潮にあるのではないかと危惧する。美術のもつ自由な発想や、それに対する開かれた批評や感想が担える役割は、今後、もっと認められるはずだ。社会基盤としての美術を行っていきたい

#### 閉鎖も視野に入れて検討中

今後の不安は残る。美術そのものは社会の中で必要性が増すと思う。個人的にはこの不安定な状況で今まで通りの活動(美術制作、発表、販売)が可能なのか?大いに不安である

アーティスト、キュレーター、研究者、活動と収入の面で大きな影響を受けていない人はいま周囲に誰ひとりない。フルタイムか兼業かは関係なく、平時でも多かれ少なかれ境界線上を歩む我々に、緊急時にます必要となるのは文字通りの安全網と考える。もちろん持続的な支援については言をまたないが、いまを生き抜かなければ明日がない。今回の禍から考え、反転して行くことが求められている

#### 現状は仕事がない状態で、助成や給付金に頼らなければ生きていけない

同時に進行しているプロジェクト4件がストップ。先行きが見えず、どうなるのか不安がある。海外でのプロジェクトも多かったが、自由に行き来ができなくなるため、コロナ後は(アートに限ることではありませんが)活動の方法は大きく変わると思う

端的に言うと、抽象的な表現になるかもしれないが、誰もが当事者である事を自覚して「国」を形成していくないと、現状の様な事態を招いてしまう

#### フリーランス救済措置がほしい。雑所得の多いアーティストは持続化給付金も申請できずつらい

感染拡大を防止する観点から中止になった展示や公演の損失の補填が必要

コロナ禍でも家にいながら文化の発信、受信できる手立てを考え続けていく

アルバイトをしながら年に1、2度、個展や芸術祭で発表し、ギャラリー主催のコンペなどにも、発表の機会をつくるために参加している。コンペや公募、芸術祭など、賞や賞金による支援は多くあるが、出品のための輸送費、現地調査も含めた交通費の負担が大きく、参加を断念することがままある。自分の表現の場として必要かではなく、自分の経済的な能力に比して妥当かで、表現の場を選ぶことを悲しく思う

#### 先の見通せなさが大きく、そのためには予定も立てにくい

##### 自由に表現できる権利

本来、個人のアトリエと職場(大学)で制作ができるはずが、大学の閉鎖により、作業の内容が限定された。また、予定していた展示は2つ先延ばしになり、金銭的にも、精神的にも少し苦しい

<p>予定していた海外アーティストとの展示はキャンセルされた。今後の見通しは立っていない</p> <p>制作場所の封鎖のため、作品制作に支障がでている。現在自宅生活スペースで制作を続けているが、動きづらく限られた作業しかできないため、思うように制作が進まず精神面に少し疲れが出て来ている。材料の確保が困難になり、かなり割高ではあるがオンラインで材料の購入をはじめた</p> <p>文化に対する支援が文化先進国のパロメーターであると、この機会に広く認識されるような活動を1人1人が心がける。対して現場にいる人間は利害を度外視した質の向上に全力を注ぐ。</p> <p>出版、編集をしているが、出版業界はこれからもっと景気が悪くなると思う。それゆえにチャレンジしづらい環境になると予想している。不安でしかない</p> <p>移動自粛やレジデンスの受け入れ停止などにより制作活動ができなくなった。今後も移動を伴う活動や人が集まるワークショップなどの活動が難しくなるのではないかという不安がある</p> <p>大学に行けるようになった後も、三密を避けるために元々募集に制限のなかった授業まで抽選式になり、受けたい授業を自由に受けことができないという状況に慣れを感じる</p> <p>この期に助成金や文化政策のための金は本当に大切なところに回っているかを精査してほしい。全国的に美術館は購入予算がほぼないといっていいが、地方の文化事業などを見ていると金がじやぶついているようにも感じることがある</p>
<p>開かない大学を休学する予定</p> <p>予定していた展覧会の予定が不透明になっている。制作と生活に必要な金額を得るために仕事も緊急事態宣言が出されている間はストップてしまい、貸付制度を使用しているが中止になった展覧会の費用として外注した支払いもあったため生活は苦しい。美術の仕事を行なったり関わるほどに金銭的にも時間的にも厳しい現実は感染症以前からの問題だと感じるので、仕組みや制度そのものが持続可能なものになってほしい</p> <p>仕事の停止と減少。保育園の休園により育児の負担が増えて、求職活動もままならず、制作はおろか生活も厳しい状況</p> <p>緊急事態だからというより、美術業界の元々の経済基盤が脆弱さが露呈した印象がある。しかし、なかなか改善できないことも思う。全体の衰退を避けることを考慮し、各々が、通常からの活動や生活で、どのように継続のために経済基盤を確保しているのか、業界全体で共有し、情報に基づいて活動を見直していく必要があるそもそも給料が安定していないため減額について証明ができないのに、インフラ整備に充てなければならない費用が多く困っている。助成申請のハートルを低くし、助成いただきたい</p> <p>コロナ禍が落ち着いてもアーティストたちの貧困はそう簡単には回復しないと思う。できるだけ多くのアーティストたちへの助成が必要</p>
<p>制作以前に生活がままならない。本年度開業届を出したため前年の確定申告もなく各種助成が受けられない</p> <p>美術大学大学院で版画を学んでいる。大学が休校となり、プレス機を必要とする版画制作が困難となった。4月からアルバイトが休業となり、生活自体が困難。個展も中止となりました。大学からは5万円支給(申請しないと貰えない)のみで、高い学費を支払っているのに腹立たしく思う。遠隔授業も学校やその先生によって様々。私の受けている授業はレジュメが送信され課題を提出するだけ。悲しい</p> <p>自宅待機により心身ともに衰弱しています。オンライン上映やオンラインビューイングなどが溢れているがそのようなものをみる心の余裕もない。支払われる日程もわからない国からの10万円や生活を維持するための補助金を探すなど日々心労がかさんでいる。映画館や美術館やギャラリーにも行くことができず、自分の中の文化的な質が低下して行くを感じている</p> <p>コロナに関係なく、活動に必要な経費をその都度、助成申請できるような形が理想です。小さな活動でも、年中受けつけているような助成が必要</p> <p>現状で私が確認できるアーティストとして受けられる公的助成は東京都による映像制作を伴う10万円給付の制度と、持続化給付金であるが、対象の範囲も非常に広く、多くの人が認められるわけではないので、たとえばアーティストという仕事に特化した支援など、より多くの人の困窮、疲弊したアーティストの制作や生活を支える支援制度が設立させると非常に嬉しい</p>
<p>美術館が閉鎖。いつ開くか分からぬ</p> <p>アーティスト向けの相談窓口機能を持つ団体で働いている。アーティストからの相談量は増えているため、自身は減収せず仕事が増えている。私のデータは、そういう背景があることをご留意ください。業界全体としては、厳しい状況を感じている。現代美術のアーティストの多くは、もともと本業だけで生計を立てられていない。「生きていくためのお金を稼ぐ仕事」への影響は人それぞれです。変わらない人もいれば、大きく減収している人もいる。彼らの生活の支援も勿論必要。個人的には、活動助成の枠組みを求めたい。様々な社会的困難さ、問題が顕在化している今、文化芸術支援を求める声の上げ方を間違えると、バッシングの嵐が吹き荒れてしまうなかで「今、活動してよいのだろうか?」「活動したいと言つていいのだろうか?」「いつから開始してよいのだろうか?」に悩んでいるアーティストが非常に多い(あくまでプライベートで受けた相談から感じている)。現在、多くのアーティストが活動を停止せざるを得ないなかで、一度立ち止まり、自己の活動と社会との関係性を再考せざるを得ない状況。内省的な時間を経て、社会に向か、新たな豊かさが生まれていく予感を受ける。「誰かが、自分の活動内容を評価し、活動に向けて背中を押してくれている」というのは、金銭的なバックアップとともに、大きな力になると思う。助成窓口には、申請に関する質問がたくさん来ると思う。「感染を拡大しない取り組み」の定義とは、厳密に数値化されているわけではなく、個々人の感覚や、自治体、状況によって微妙に異なるので「この取り組みは大丈夫ですか」と聞かれると思う。審査も迷う点があるのではないだろうか。個別対応しながら対話することこそ、もまた、判断を産まない社会のために必要だと感じる。使途を限定しすぎず、活動自体が期間内に終わらなくてもよいなど、ぜひ、この次の未来につながる柔軟な助成を</p> <p>実情は、今年1年仕事があるかどうかというラインに来ている</p> <p>特に現代アート業界は、昨今アーティスト主体というよりも、周囲によっての産物となってきた。今回のコロナウイルスによって、業界の実態が可視化されたことは大切であり、ひとつの時代の潮目と眺めている。もっと、本来、本質に根差したIndependentがアーティストの当たり前であるようにと考える</p>

作り手であるアーティストも生活や活動を継続するのが困難な状況だと思うが、それを支える仕事をしている人間もまた活動を継続するのが困難な状況が続いている。フリーランスのキュレーターやコーディネーターとして活動していて、いくつも展覧会が中止、延期になり、それに対する補償もなく、収入減のままこの現状を受け入れるしかない状況
芸術は社会にとって個人にとって命に関わる問題になりうるものだと思う。緊急時には特に。芸術とはマイナリティであり、新しいものを作り、関わることによってその人間に力を与え、作り手も受け手をも癒し、思いがけない繋がりや解決や解決のなさや居場所を見つけ出す、緊急時こそ必要で継続されるべきもの。その芸術活動のための支援は社会的にも大事。そこでされた活動の検証は後の社会にも大きく貢献すると考える。
海外在住の邦人アーティストも様々な支援の枠組みから漏れている場合があるので、支援の対象としてほしいアーティスト、ギャラリーへの支援はもちろんぜひとも必要だが、もっとずっと以前から財政難に苦しんできた中小規模の美術館への支援も必要と考える。長期の臨時休館による収入減、再開のためにかかる臨時の費用、正規雇用者ではない職員の救済にかかる費用などを負担できる施設は少ないのでないか
いくつもの展示やプロジェクトが延期となり、ではそれをいつやるかという時に、いまのところ予定通り行うものも延期となる可能性を考えると、計画が立てられないまま月日が立ち、それにより精神的にきつくなっている元々の発表機会や収支が一定でないため、損失等を明確化できない。助成申請しつらい。制作の継続に必要な現金支給や、発表の機会をつくっていただけるとありがたい
芸術活動および社会活動の停止を余儀なくされている現状。芸術活動意外の仕事を行いながらその金銭を芸術活動に充てていた。仕事が無いので生活する事も芸術活動をする事もままならずいつアトリエを追い出されるか、食べる物がなくなるかも分からぬ。私は画家たが制作と生活は密接に関係している。日本の芸術が生き延びるには、私達芸術家が生き延びなければいけない
<b>必要な資料が入手困難</b> アーティストには <b>便益を問わない助成</b> さえあれば、アーティストのアイディアで、今後可能な限り前向きに進むための活路を各自自身で導き出すことができる <b>4/1~30 展示会中だったが、会場が営業停止。準備費用がかかった。</b> 今後も当分は沢山の人に見てもらい購入していただく展示会などはできない。 <b>現在はオンラインストアをはじめた</b> こうした状況がいつまで続くかわからないなかで、時間が経つごとにそれぞれ固有の困難が発生すると想像される。美術(芸術文化)という見えにくい営みやそこに携わる人を守っていくためには、固定費の補助、もしくは <b>便益を問わないおおらかな助成</b> が求められるのではないかと考える 全てのアーティスト達は作品をみんなに見てもらいたい気持ちでいっぱい。お金より作品が多く人の目に当たるようなそんな助成金があればいいと思う。それこそが端的なお金の支援でなく、長期的な支援につながる
日本では芸術文化は最後の最後。でもいいので支援お願いしたい
<b>在宅ワークと制作のバランスが取れなくなつた</b> 先行きが見えないが <b>展覧会の予定はある</b> 。しかし子どもが家にいるため家事育児に追われ制作ができない 1年以上準備し夏に開催予定だった自身が企画しているプロジェクトを内容変更して実行しようと思っている。 今回の影響にも関係する内容になる予定 創作活動に従事している人の中にはコロナの影響がなくても安定せず厳しい状況に置かれている人が少なづいている。コロナの状況下の変化で厳しくなったからという支援は、その以前から厳しい状況の人とどのような差別化ができるのか。それは不要なのだろうか。一方で、コロナに関わらず、文化芸術を活動の場とする人がある程度保証された環境で創作できる状況、環境を提供できていない状況自体を考察する必要があると思う コロナが終わらないと新しいことができないのでは立直しなどが必要。 仕事が無いので無職、今後も世界が止まりイベントや新規事業が立ち上がらなければ、仕事のあて無し。イベント企画や集客ツールを作っているが、今集客してはいけないので何も無い 作品の委託先がクローズしていて販売が動かない。収入が立たれると続けることが難しくなるので今期間特 ち堪えられる助成金があるといい 展覧会や催しなど活動を以前のように再開したい。このような状況でもネットなどを通じて作品を紹介できる環 境作りのための <b>支援</b> が幅広くあれば文化芸術は維持発展できると思う
<b>固定費の支援</b> だけでも非常に助かる 本当に模索する形で展示やワークショッププランを考えているが、本当に大丈夫なのか、それが受け入れられるのか、未知数。継続できる様な <b>支援</b> をお願いしたい
<b>仕事が激減</b> のため、あちこちに声かけし、制作仕事を何とか確保しなければならない このまま <b>展示会の機会</b> がなくなれば、 <b>生活苦</b> になってしまう 感染症予防の観点から仕方がないが、経済的に打撃を受けているのも事実。 <b>収入だけ減ってこれまで通りに作品を発表してくれ</b> といふのも厳しい 人が直接集まることで成立する仕事のため、今後の再開の目処が立たないことが、大変不安 今後の世界にどのような芸術が必要か、時代を切り開くアーティストに支援するコンベを企画してほしい 展示会がなくなり、収入がない。世の中の購入意欲がなく、注文もない状態。 <b>今後は、HPの売却やネット販売、SNSに動画の投稿など、アプローチしていく</b> 他所の地域を訪ねたり、滞在したりし、対面で行うヒアリングを中心に作品をつくってきたので、これまでの方法だとプロジェクト遂行自体が難しい。 <b>そのなかで何をどうつくるのか</b> 思案中。方法の開発から始めるので楽しみもある コロナ自粛が収束して <b>以前と同じ生活</b> が取り戻せるか不安がある。制作、発表場所、収入面。 子どもの保育園休園による制作時間の大幅減少と、展示会の中止・延期と、二方面からのダメージを受けてい る。申請や保育園の特別保育の利用などの際、個人経営や作家の立場の弱さを改めて感じる 先行きが見えないなかで計画が立てられないのが不安である

発表できる会場 今後の、コロナの影響で今まで以上に発表できる会場が狭くなる
美術は私たちになくてはならないものだと思うが、提供する側の安全について、企画が動き出して忙しくなると特に声を上げづらい状況になるのではないか。感染が拡大し始めた頃、地方で活動する作家や地元の人たちと認識の違いがあり、自分だけが企画実施に対して否定的に捉えているように見られ精神的苦痛があった
フリーランスとして、文化行政の委託業務とアートスペースの運営(アーティストラン)を行なっている。前者は予定していた事業内容の変更・延期。後者はアーティストインレジデンスプログラムを実施しているが今年度は中止。これまででは「活動」=「人が集まるごと・行き来すること」として計画していたので、来年度以降の予定は情勢に応じて変更しなければいけない。ただ、地方都市部における文化活動は地域の特色を生かしたものなので、人の往来や滞在の機会が失われることはアイデンティティの喪失のようだ
ソーシャル・ディスタンスを考慮するため、一度に多くの鑑賞者を集められないことが不安である。そのためパフォーマンスやライブイベントの開催が難しい。開催日を増やすことで、鑑賞者の総数を増やすことができるが、そのためには運営費が増えることが懸念される。
収入における美術分野の割合が少ないので、今回の経済面での影響は少ないが、裏返せば通常時から美術分野における労働対価が低いために美術分野のみで経済的に自立することが難しいという状況を反映している
ギャラリーの開廊を控えていたが延期している。 <u>どのような形態がいいのか検索中</u>
中小の法人に対する国の助成は色々と落ちているが、フリーランスが当てはまる事例が持続化給付金以外あまり発見できず、芸術家業としては当てはまるものが少ないと感じる
緊急事態宣言の出口の見通しがたないので計画など白紙状態
以前の様な状態で仕事がしたい
早く通常の活動ができるように
資金的な窮状は表現者にとって死活問題なのでどのような援助であっても非常にありがたい。しかし私たちは、これまで日本においては極めて軽んじられてきた芸術の存在意義を、社会にむけて広く伝える責任も追っている。 <u>車に援助を受けるだけでなく、それを利用してこの機会に日本の芸術復興のためにこれまでにない努力をすべき</u>
コロナ禍の一時的な経済損失の補償だけでなく、算出できない損失にも目を向け、より作家活動にあった助成や補償となるよう、これまでの文化行政や支援方法の考え方を新たにするきっかけにできる事を希望
すでに採択が決まった助成に関しても、プログラムの内容が申請時と大きく変わる可能性があるので、変更が認められると大変嬉しい
大学内での研究の継続。大学外での作家活動
活動拠点が休館中だが、社員への給料は通常通り支払われており、他団体や個人より逼迫しているわけではない。そのため、今の状況でのクラウドファンディングの立ち上げや助成の申請なども気が引けてしまう状況で、もどかしい日々
プロジェクトの費用だけでなく、スペースを維持するには人件費がかかる。現在、そういった運営のための助成金はほほないため、非営利目的の弊スペースは、人件費にも使える用途を問わない助成金があると大変ありがたい。こういったスペースで働く人のほとんどは個人事業主・フリーランスのため、各種社会保障にも使っていいタイプのものだとよりありがたい
これまで長年にわたる、アーティスト・イン・レジデンス事業運営から、今回のパンデミックによる、国際社会構造の変革が緩やかに始まる事への対応、特に今後の国際間の移動(航空業界など)に関する <u>長期的な動向にマッチした交流活動の新たな試行を始めたい</u> 初年度と見てみたい
現代美術のマネジメントの分野で再就職しようと考えていたが、この状況下ブランクが長い人はほぼ無いに等しい。あっても生活できるような賃金でなく、現代美術分野での復職は諦めようと考えている
展覧会などが再開しつつある中、来場者の安全が確保されているのかが、とても心配。心配しながら、鑑賞してもらうような状況は望まない。
運営している劇場は再開未定。国内海外公演も再開時期未定
コロナによって影響を受けていない人というのはほとんどないと思う。例えば経済的なダメージを受けていないとしても、仕事以外のすべての行動を抑えられていたり、精神的な苦痛を強いられていたり、社会人に限らず学生も大きな困難に見舞われているはず。今は職種や分野、身分に問わらない迅速な給付金の対応が必要だと思う。
コンペに入選したが展示が延期になった。ギャラリー所属もしていないので発表の機会が減ってしまった
現状、フリーランスの文筆業の支援はほほなく、孤立無援です。美術系メディアは研究機関にいる大学教員、学芸員に原稿依頼をするアカデミズム傾向の高まりもあり、その風潮はますます強まる気がする。今後の活動をどうするべきか考えている
美術芸術の教室を行なっているが、塾とは違い、急ぎ始める必要性を求められず、当面の開室見通しが立たない。ネット教室を行なっているが、今までの収入にはならない。
助成・支援の情報を入手しやすくしてほしい
日々不安
発表の場を増やす
正直なところ、まだ具体的に今後どのような活動が維持できるか不透明。議論の場が必要だが、その場をつくることができないというジレンマがある。
コロナ後のAIRの在り方。移動を前提に成り立っていた事業なので、新しい概念のアートスペースを模索する必要がある。そのための学びの機会がほしい
大学や企業に所属していないフリーの作家およびそれを共に作るコーディネーターなど美術関係者、1年目の人も視野に入れた支援
人生設計を、立て直し、今できないことはあきらめ、この状況下でやれることを前倒しすることにした

通常の展示も難しい状況だが、今後の不景気が確実とされており、アートマーケットの縮小も心配
アーティストの活動できる環境を今まで以上に整備していく必要が出てきた。しかし、今まで通りには戻らないことを意識し、新しい道を切り開くために助成金を利用していくべき
今本当に困窮しているのは、非正規雇用やフリーランスで活動をしているアーティスト、キュレーター、マネジメントスタッフである。特にフリーランスのキュレーター、マネジメントスタッフは、企画の延期や中止によって大きな影響を受ける。本助成がそこにも目配りするものであることを望む
活動を続けていきたい
これからは新たな世界が待っているが、大きな資本をもった団体などが「以前」に戻ろうとすると、小さな団体やアーティストの動きがより制限されてくる、それが心配。
公益財団法人勤務の学芸員で、非公募の指定管理者として美術館を運営している。現状の指定管理期間は指定管理料内での運営が可能だが、次回の切り替わりの際に大幅な指定管理料の減額が予想され、今回のコロナの影響が数年遅れで来ると思われる。またロックスターと呼ばれる大規模展が入場者数・収入の柱としてありますか、その在り方自体を見直す必要に迫られています
団体所属と副業(フリー)の2パターンで働いている。団体は公的事業委託業務のため、すぐに収入がなくなるわけではないが、事業を今年度に企画・開催しなければならないなか、三密を避けてどのように発表の機会や交流を目的とする事業をしたらよいのか、関係各所と知恵をしぼっているが、落ちどころが見つかっていない。試行的、実験的におこなう事業に使える助成金があればよい。いきなりオンライン配信、展示と言っても技術もできることも結果も見えないので、どう進めてよいかわからない
補償なしに再度非常事態宣言を発出された場合、解雇による失業者となるため、簡易で迅速かつ無条件の給付金を求める
担当プロジェクトの再開めどが立たないし、資金もどうなるか分からない。準備は進めているが、この状況が改善された後の実施方法や会場の状況なども見えないので、正式なGOがいつになるのか不安
できるだけ形式を変えてアートプロジェクトを実施する
携わっていた事業と今後参加予定事業の合間に無職期間にこのような事態となり応募できる助成がない個人の美術家、音楽家の活動に対する理解や評価が低く、活動が現状困難。地道に表現研究や鍛錬を積んでいる優れた表現や活動の正当な支援を切望する
展覧会が全て来年、再来年に延期することでスケジュール調整が困難になった。
予定、取組中の案件が、全て延期になってしまい、当面の見通しが立たず、困っている。ただ、安心して活動できるよう、まずは終息に向けた行動を優先するしか無い
2枚入りマスクに表れているように国や政府には期待できない。それ以外にもう少し期待できる制度を望む公演やイベントなど中止・延期になったものがほとんどだが、徐々に再開する動きが出てくる中、感染拡大リスクを避けながら実施するためのノウハウを共有できる場が必要だと思います。
コロナによって現時点で実績のある作家だけにかかわらず若い作家の未来を奪わないでほしい。オンラインでの展示企画等にも助成希望。また相談窓口を大きく告知希望。コロナによって社会、文化、経済、人々と文化的関係性のあり方を関係者と国で互いに相談できるような場を設けて頂きたい
個人・法人にかかわらず、収入の落ち込みに応じた支援があるとよい
有名無名に限らず、様々なアーティストの存在やさまざまな価値観や視線があることを広く周知し、学び合うことで、行き詰った世の中に新たな生活や価値観を提案し、社会的な治癒力を生み出す力を養って行くには、アーティストの存在や活動が必須。経済を社会の物差しにし過ぎては、バランスが崩れ、人間の本来ある能力がうまく発揮されない
コロナの影響で収入が非常に減ってしまって、スタジオの家賃と素材費を払うことができなくなり、アーティスト活動が難しくなった。精神的にストレスが多い
アート活動ができるようになる社会というよりも、アート活動がなぜ必要なのかを議論して求める社会になっていってほしい
困難な状況ですが、オンラインでできることを進めながら自身の制作を続けている。自身の拠点が地方であることもあり、大都市が行っている助成は対象外になっていることに不均等さを感じている
公立美術館勤務のため、収入面などの影響は比較的小ない方だと思う。今後の事業の予定を立てられないのが目前の悩み。特に教育普及事業や特別展の関連イベントは、夏までは人が集まるものは基本的に中止の方針が決まっているが、秋以降の事業は開催できる保証がないままに準備だけは進めなければいけない現状
これ以上緊急事態宣言が長引くと、予定していた展示を先延ばしにできないため心配
実行委員会形式の組織団体でも充分な雇用条件(賃金等)を満たしている訳ではないので、事業の削減の代わりに雇用がなくなるという不安要素のない状況に保ちたい
コロナ自粛から保育園が自粛になり2歳の子どもを保育している。制作以外の収入を得るための仕事をしながらのため、全く制作に当たられる時間がない。夫婦ともコロナの影響により収入が激減したためどんな形でも支援があるのはありがたい
コロナの影響や美術に限らず、ガンガン支援金を給付して経済を回すのがよい。何に使うだとか、本当に困ってるかだとウダウダ言つてると間に経済は停滞して、困窮しているものから死んでいくので
全ての公立美術館行事をアーティストに開放
先日都が助成した「アートにエールを！」プロジェクトは、エントリー期間が設定されていたにも関わらず、急速打ち切りとなった。助成金情報はシェアされづらい。十分な情報共有と、計画的な募集受付を望む

## 7) 回答者属性

### ① 所属／職業(主なものを1つ選択、N=354、必須)【表4】

所属／職業	人数	%
作家(アーティスト)	209	59.0
マネジメント(コーディネーター、マネージャー、プロデューサー)(フリーランス)	39	11.0
芸術・文化団体／NPO 職員	30	8.5
キュレーター(フリーランス)	14	4.0
文化施設職員	12	3.4
教員(学校等の教育機関)	11	3.1
経営者	10	2.8
教師(教室、ワークショップ等)	3	0.8
公務員(国・地方自治体)	3	0.8
無職	3	0.8
執筆業、ライター	2	0.6
研究者	2	0.6
会社員	2	0.6
批評家／評論家	1	0.3
文化専門機関職員	1	0.3
その他(※)	11	3.1

※その他：編集・出版(2名)、農林業、作家兼教員、アニメーター、派遣とアルバイトの掛け持ち非正規肉体労働者、アーティストの家族、技術者、作家・大学院生、私設アーティスト・イン・レジデンス運営者(マイクロレジデンス)、団体兼フリーランス

### ② 働き方の形態(主なものを1つ選択、N=354、必須)【表5】

働き方の形態	人数	%
個人事業主／フリーランス	218	61.6
被雇用者(非正規：パート・アルバイト・派遣・契約・嘱託)	57	16.1
被雇用者(正規)	36	10.2
法人事業主(営利)	20	5.6
法人事業主(非営利)	14	4.0
その他(※)	10	2.8

※その他：失業中、任期付雇用、フリーランス兼被雇用者(正規)、無職(2名)、フリーランスとしての制作・個人事業主としての仕事／正規雇用者としての勤務全て、学生(2名)、団体でパートかつフリー、その他

### ③ 活動ジャンル(主なものを1つ選択、N=354、必須)【表6】

活動ジャンル	人数	%
全般	81	23.1
インスタレーション	65	18.4
絵画	62	17.5
映像	20	5.6
彫刻	14	4.0
メディアアート	14	4.0

写真	13	3.7
版画	7	2.0
舞台美術	7	2.0
デザイン	6	1.7
工芸	6	1.7
イラストレーション	4	1.1
映画	2	0.6
建築	2	0.6
書	2	0.6
アニメーション	2	0.6
陶芸	2	0.6
文化財	2	0.6
漫画	1	0.3
テキスタイル	1	0.3
その他(※)	40	11.3

※その他:伝統芸能、現代美術(12)、アートプロジェクト(6)、音楽／サウンド・アート(3)、パフォーマンスアート(2)、コンテンポラリー・アート・現代アート(2)、批評および美術史(2)、ダンス(2)、展覧会企画、まちづくり、ビジュアルアート(絵画、彫刻、舞台とは限らない横断的、総合的)、ソーシャルアート(社会芸術)、信仰と公共を扱う活動と制作を行ったり来たりする美術、伝統芸能と現代アートとの融合、伝統ガラス作家、現代美術と工芸、ディレクション、編集・執筆

#### ④ 活動年数(N=354、必須)【表 7】

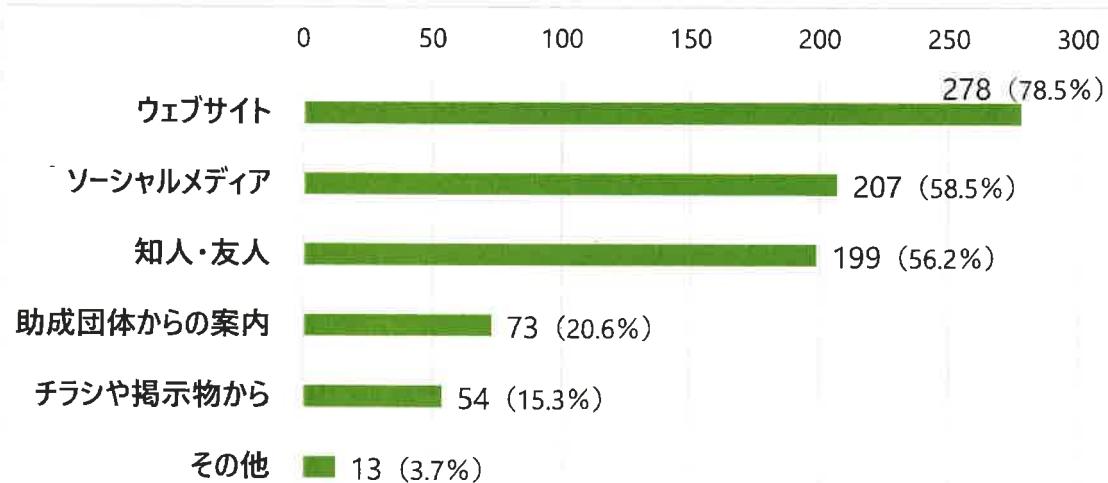
最多回答は活動歴「10年」(15.5%)、続いて「20年」(11.0%)、「15年」(9.6%)、「9年」(5.4%)、「30年」(4.5%)、「8年」「5年」「2年」(4%)の順に多かった。活動歴「1~9年」が全回答者の30.2%、「10年~19年」が39.5%、「20年~29年」19.5%、「30年~39年」7.1%、「40年~49年」2.0%、「50年以上」が0.6%であった。

活動年数	人数	%	活動年数	人数	%	活動年数	人数	%
1	5	1.4	14	4	1.1	30	16	4.5
2	14	4.0	15	34	9.6	32	1	0.3
3	12	3.4	16	3	0.8	35	5	1.4
4	8	2.3	17	5	1.4	36	2	0.6
5	14	4.0	18	4	1.1	38	1	0.3
6	10	2.8	19	4	1.1	40	2	0.6
7	11	3.1	20	39	11.0	41	1	0.3
8	14	4.0	21	5	1.4	43	1	0.3
9	19	5.4	22	7	2.0	45	2	0.6
10	55	15.5	23	4	1.1	47	1	0.3
11	10	2.8	25	11	3.1	50	1	0.3
12	13	3.7	26	1	0.3	93	1	0.3
13	8	2.3	27	2	0.6			

⑤ 活動地域(N=354、必須、延べ数) 【表 8】

地域	人数	%	地域	人数	%	地域	人数	%
東京都	166	46.9	新潟県	4	1.1	大分県	1	0.3
京都府	35	9.9	埼玉県	4	1.1	長崎県	1	0.3
大阪府	25	7.1	香川県	4	1.1	栃木県	1	0.3
神奈川県	23	6.5	千葉県	4	1.1	富山県	1	0.3
海外	22	6.2	全国	4	1.1	福井県	1	0.3
福岡県	19	5.4	山口県	3	0.8	愛媛県	1	0.3
北海道	11	3.1	奈良県	2	0.6	岡山県	1	0.3
沖縄県	9	2.5	石川県	2	0.6	岩手県	1	0.3
宮城県	9	2.5	静岡県	2	0.6	宮崎県	1	0.3
滋賀県	9	2.5	熊本県	2	0.6	高知県	1	0.3
茨城県	8	2.3	広島	2	0.6	山梨県	1	0.3
兵庫県	7	2.0	鹿児島	2	0.6	その他	2	0.6
愛知県	6	1.7	三重県	2	0.6			
長野県	5	1.4	関西圏	2	0.6			

⑥ 日頃、助成の情報はどこで得ているか(N=354、必須) 【図 5】



※その他: 新聞、テレビ、大学、関係者、メールニュース、CP ネットメーリングリスト得ていない、あまり見ない

以上

## 【図表一覧】

図 1 【新型コロナウイルスによる活動や生活への影響】	p.1
図 2 【活動への影響を軽減するために必要な助成・支援】	p.3
図 3 【美術分野における非常時の緊急支援に特に必要な事柄】	p.4
図 4 【必要な支援額の理由の内容分類】	p.12
図 5 【日頃、助成の情報はどこで得ているか】	p.28
表 1 【ご自身にとって必要な支援額】	p.5
表 2 【ご自身にとって必要な支援額の理由】	pp.7-12
表 3 【現状や今後についてのご意見等】	pp.13-25
表 4 【回答者属性①所属／職業】	p.26
表 5 【回答者属性②働き方の形態】	p.26
表 6 【回答者属性③活動ジャンル】	pp.26-27
表 7 【回答者属性④活動年数】	p.27
表 8 【回答者属性⑤活動地域】	p.28

本アンケート調査にご回答くださった皆さま、周知にご協力くださった皆さま  
お力添えいただき、ありがとうございました

- ※ アンケート調査後半の「美術分野における現状の助成制度について」の集計結果は、追って公開予定です
- ※ 調査担当／文責：若林朋子（プロジェクト・コーディネーター／立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科准教授）

### ■本件に関する問合せ先

〒108-8522 東京都港区芝 5-36-7 三田ベルジュビル 20F 株式会社ニフコ内

公益財団法人小笠原敏晶記念財団（アンケート調査担当）

Tel: 03-5476-2174 Fax: 03-5446-0633

URL: <http://ogasawarazaidan.or.jp>

E-mail: [contact-arts@ogasawarazaidan.or.jp](mailto:contact-arts@ogasawarazaidan.or.jp)